



世界の ユース文化調査

デジタル世代からの洞察

目次

3 はじめに

- 5 宗教的態度と行動
 - 16 個人的な体験と葛藤
 - 25 インターネット生活とその影響
 - 33 アイデンティティと人間関係
 - 44 ティーンたちへの影響と指導的な声
-

- 53 ロブ・ホスキンスからのメッセージ
- 54 OneHopeについて
- 54 調査方法
- 55 データ収集
- 56 定義

はじめに

世界の現在のティーン*たちおよびヤングアダルトと呼ばれる世代は、1995年から2012年の間に生まれた世代です。この世代は、20億人近くいて、世界人口の約25%を占めています^[1]。これらの若者たちは、彼らの人生経験や彼らが育った世界からの影響によって、ユニークで多様な視点を持っています。

*「ティーン」とは、13-19歳の年代に事を指し、この調査はこの年齢を対象に調査しました。

この調査では、このグローバル世代の習慣、葛藤、価値観、影響力を明らかにしています。またこの統計は、神、イエス、聖書、そしてキリスト教会に対する彼らの考え方も明らかにしています。国際的な観点から、この世代の信仰を考察する点において、この調査は、この種の調査の中で最も包括的なものであると私たちは考えています。驚くべき発見、まだ知られていない事柄を含め、世界中の何千人ものティーンたちから収集したデータは、この世代の全体像を描いています。



20カ国



14言語



インターネットに
繋がっているティーン
8,394人



年齢 13-19



70項目の調査



アフリカ: ケニア、ナイジェリア、南アフリカ (1,275人のティーンを調査)

アジア: 中国、インド、インドネシア、日本、ベトナム (2,100人のティーンを調査)

ユーラシア: エジプト、オランダ、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、スペイン、イギリス (2,936人のティーンを調査)

ラテンアメリカ: アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、メキシコ (1,673人のティーンを調査)

北アメリカ: アメリカ合衆国 (410人のティーンを調査)

ティーンたちについて

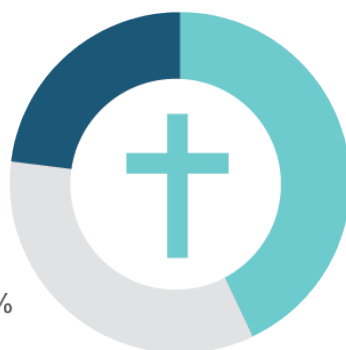


その他の宗教: 23%

- イスラム教徒 12%
- 仏教徒 5%
- ヒンドゥー教徒 4%

無宗教 34%

- 無神論者 15%
- 回答無し 13%
- 不可知論者 5%



クリスチャン 43%

この調査は、インターネットに定期的にアクセスしている13～19歳の若者を対象に、オンラインパネルを介して配布されました。これらの結果は、すべてのティーンたちの視点を反映するものではなく、インターネットに接続している若者のみを対象としていることに留意してください。データの収集期間は、コロナウイルスの世界的流行の影響が広範囲に及ぶ前の2020年2月24日～3月27日です。その結果、この調査は、基本的にはロックダウンや自粛の影響を受ける前のティーンたちの価値観や行動を反映しています。

調査チームより

この報告書から新しいことを学ぶだけでなく、他の世代と同様、福音の希望を必要としているこの世代のために、あなたの思いと心が行動に移されることを願っています。この調査のすべての統計は、多くのティーンたちがそれぞれ独自の希望、恐れ、そして葛藤を持っていることを明らかにしました。これらのティーンたちにはそれぞれに名前があり、生活があり、また永遠の運命を背負っています。OneHopeは、御言葉を通してすべての子どもと青年をイエス様に導くことにより、その運命に影響を与えようとしています。

宗教的態度と行動

本調査で得た考察

世界中のティーンたち



世界のティーンたちの半数以上（52%）が、自ら聖典を読んだことがないと答えています



教会に行っていないティーンたちの多くは、招待されれば参加しても構わないと答え、彼らが知っているクリスチャンは親切で思いやりのある人たちだと述べています



ティーンたちの半数以上（52%）は、すべての宗教は等しく真実を教えていると信じています

クリスチャンであっても、未信者と同様にそのような答えをする傾向にあります



世界的に見て、ティーンたちの3人に2人が、自分の信仰心や信仰の歩みは自分のアイデンティティの重要な部分であると答えています

私たちが調査したイスラム教徒の若者は、宗教的な礼拝への出席、聖典を読むこと、祈りに関して、調査したすべての宗教の中で最も規律が守られています



クリスチャンのティーンたち

調査対象となったティーンたちの43%が自分はクリスチャンと自認しています



7%の人だけが「コミットしているクリスチャン」の価値観と習慣を示しています（8ページの定義を参照）



自分がクリスチャンであるというティーンのうち40%は、聖書を読んだことがないと答えています



キリスト教の中心的信条を信じ、定期的に聖書を読み、祈りの習慣を持っているティーンは、個人的な葛藤を経験する割合が著しく低い傾向があります



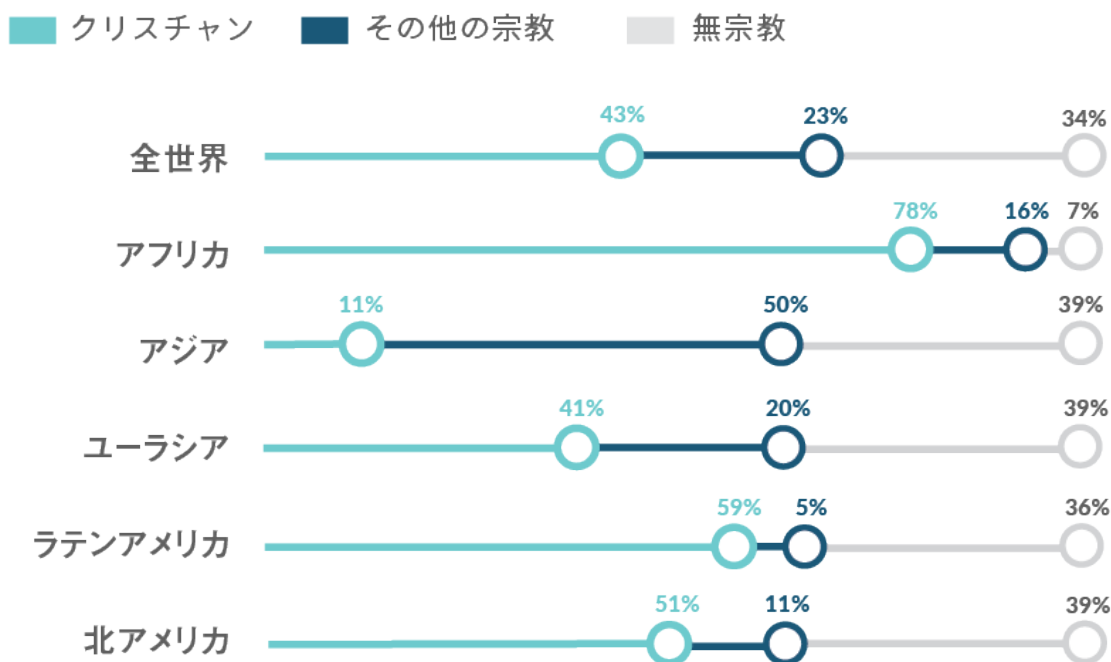
宗教観と行動

この調査は、信仰と宗教が今日のティーンたちの生活の中で果たす役割を探るユニークで包括的なものです。

彼らにとって信仰の歩みはどれほど重要なのでしょうか。彼らはどのように自らの信仰を実践しているのでしょうか。この調査は、今日のティーンたちの宗教的な態度や行動を、また、それらが彼らの生活の他の領域にどのように影響しているのかを探るものです。

全世界の宗教アイデンティティ

世界全体では、ティーンたちの約5人に2人がクリスチャン、4人に1人が他の宗教、3人に1人が無宗教、無神論者、不可知論者であると答えています。私たちが調査したすべての地域の中で、アフリカが最もクリスチャンが多く、アジアが最もクリスチャンが少ない地域でした。



コミットしている少数者

信仰に関連して、最も興味深い調査結果は、伝統的なキリスト教の教えと実践にコミットしているティーンのクリスチャンに焦点を絞ったものでした。自分を「クリスチャン」と呼ぶことが何を意味するのかは、その人自身、その人を取り巻く環境、また文化的背景によって大きく異なることがわかりました。この調査の便宜上、OneHopeでは、回答者が「コミットしているクリスチャン」かどうかの信仰と行動の定義を定めました。

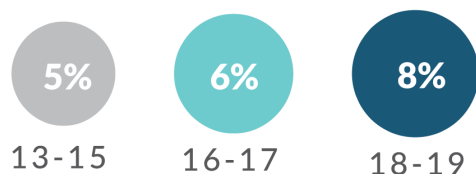
「コミットしているクリスチャン」ティーンが持つ6つの特徴



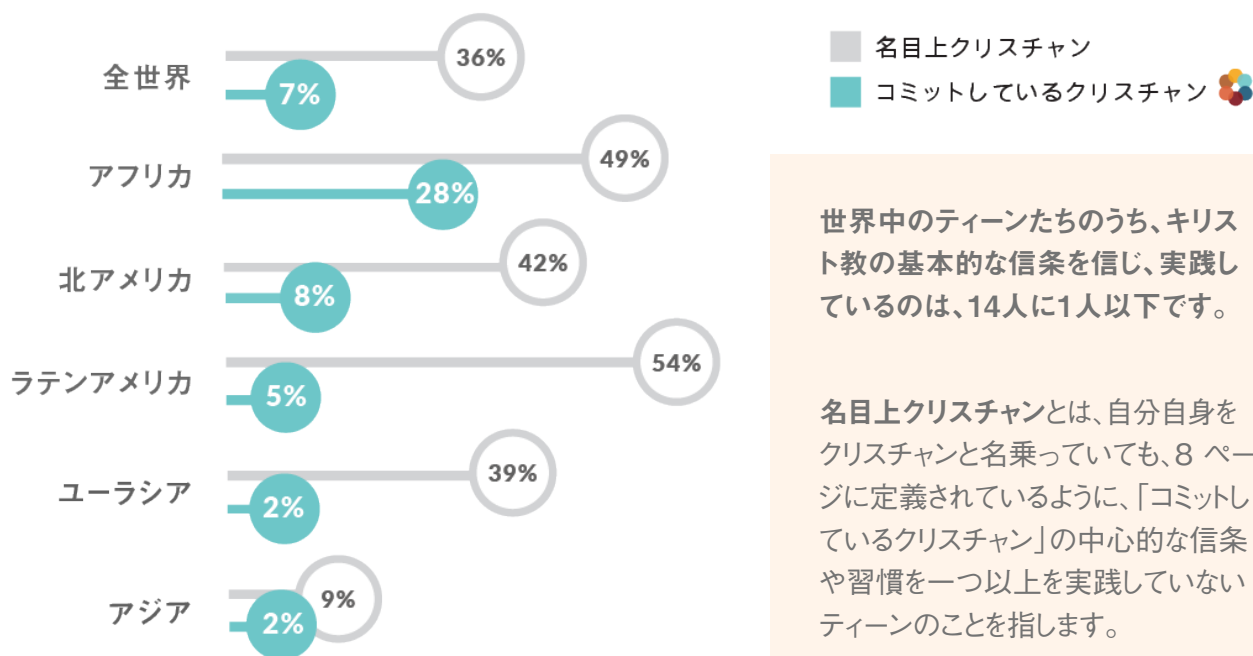
※これらのティーンたちは、エホバの証人やモルモンとしてではなく、クリスチャンと自認しているティーンたちです。「コミットしているクリスチャン」には、プロテスタント、カトリック、セブンスデー アドベンチスト、ギリシャ正教、または他の多数の宗派が含まれています。

世界的に見て、約14人に1人のティーンがこの「コミットしているクリスチャン」の定義を満たしています。私たちのサンプルの43%が宗教は、キリスト教であると自称していますが、クリスチャンとしての歩みにコミットしている信仰や行動を示しているのはわずか7%でした。ハイティーンは、ローティーンよりもコミットしているクリスチャンの比率が高いです。13-15歳のティーンのうち、コミットしているクリスチャンは5%だけ、16-17歳では6%、18-19歳では8%です。

年齢別に見るコミットしているクリスチャンの割合

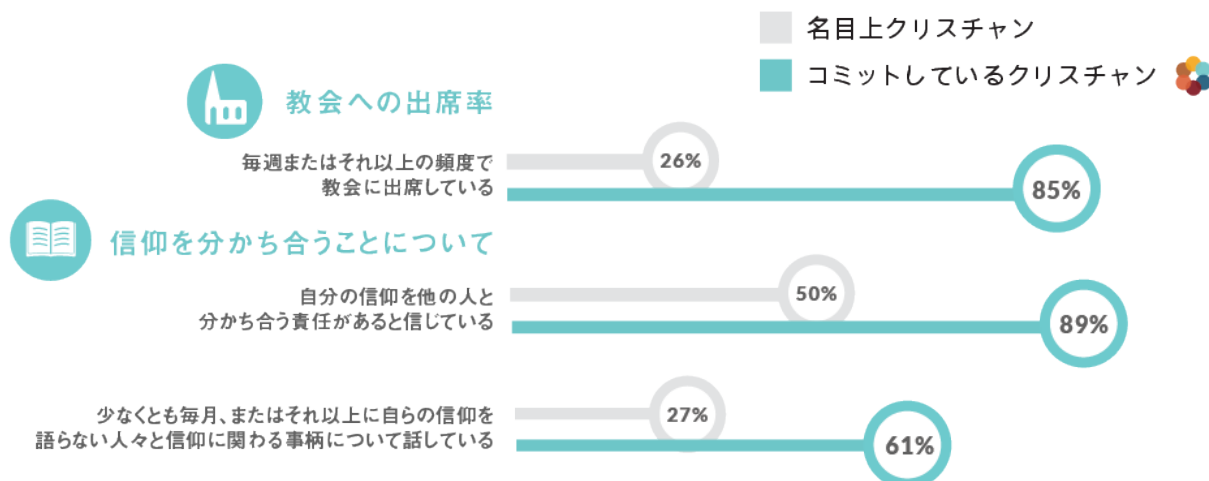


世界的に見たコミットしているクリスチャン



宗教的行動

コミットしているクリスチャンの若者は、この調査において他のクリスチャンの若者とは明らかに異なる宗教的行動や信仰を持っています。コミットしているクリスチャンは、名目上のクリスチャンのティーンに比べ、少なくとも週に一度は教会に出席している率が3倍以上です。彼らは自らの信仰を他の人と分かち合う責任があると強く信じていて、伝道活動を行うことでその信仰を実行に移しています。コミットしているクリスチャンは、未信者と信仰についての会話をしている比率が、名目上のクリスチャンの2倍近くあります。



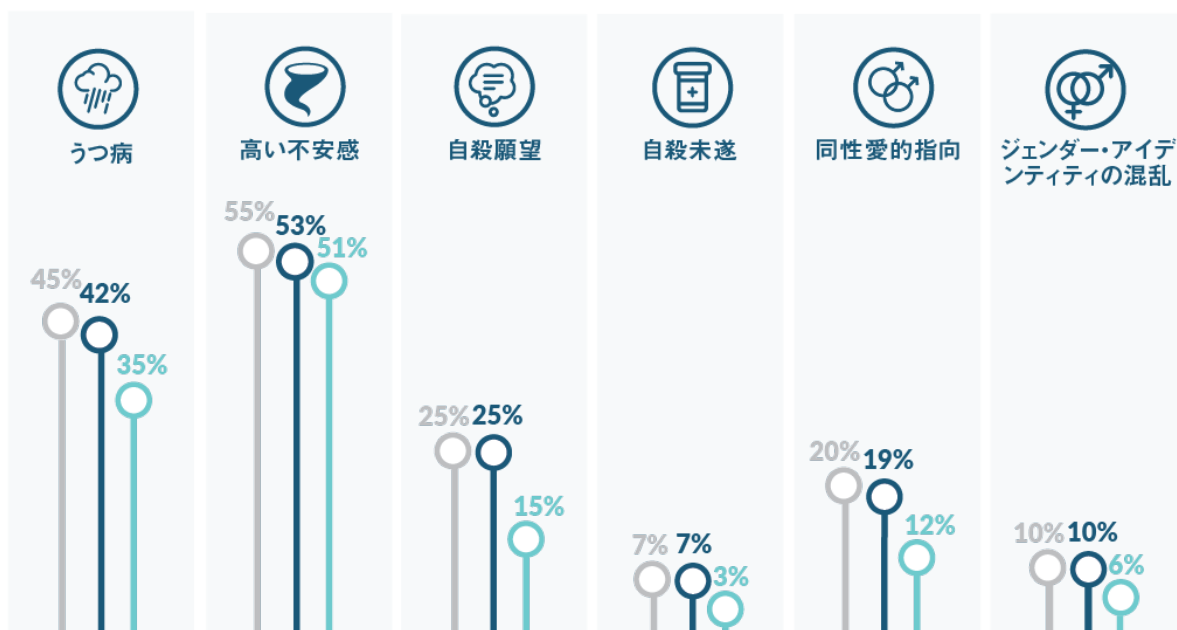
コミットすることのメリット

実際のところ、「コミットしているクリスチャン」の生活には、どのような変化が見られるのでしょうか？統計から見ると、「コミットしているクリスチャン」であることには、まちがいに多くポジティブな効果があることが明らかになっています。

個人的葛藤

この3ヶ月間で、私が体験したのは：

■ 全てのティーン ■ 名目上クリスチャン ■ コミットしているクリスチャン

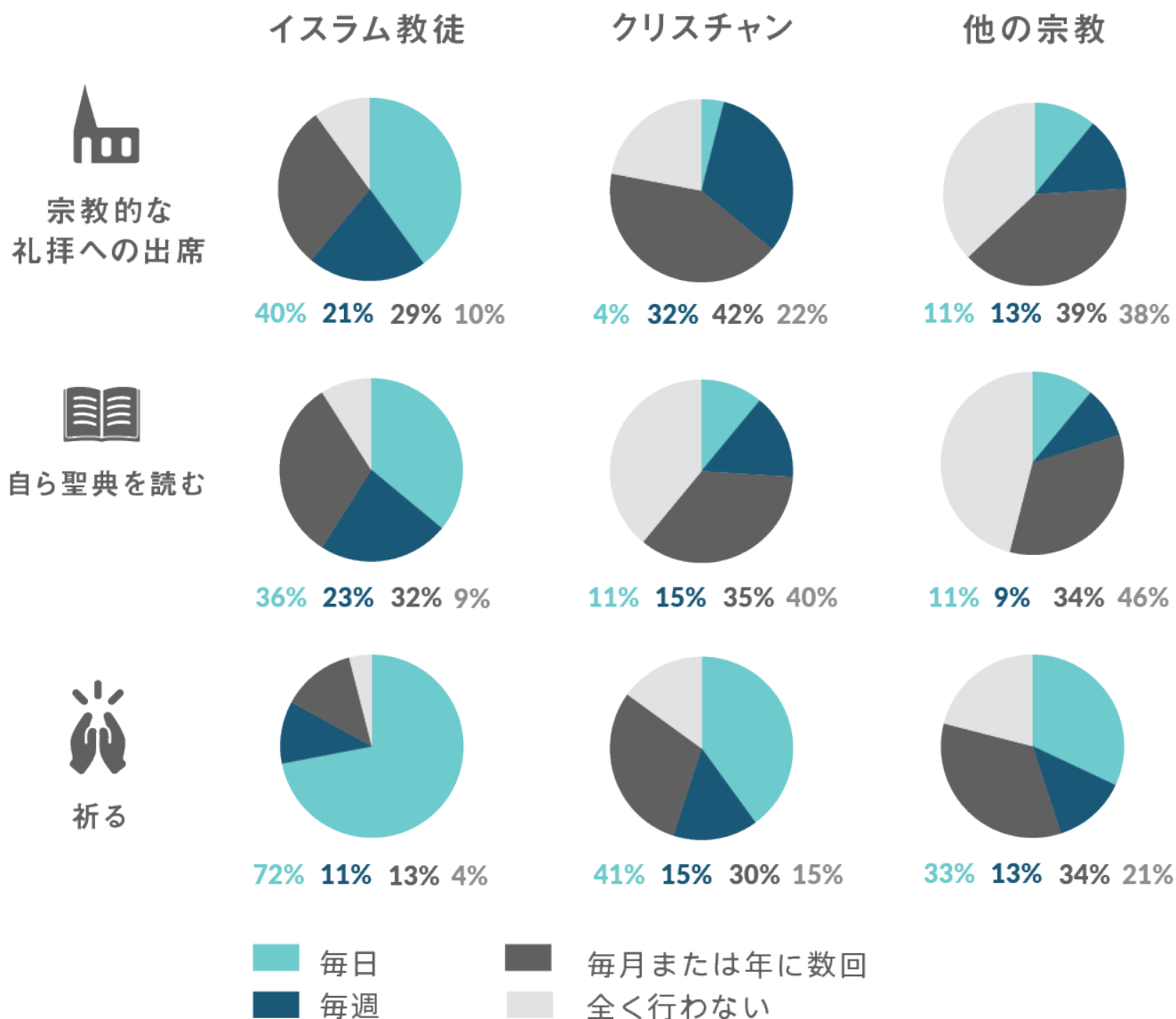


コミットしているクリスチャンは、最近落ち込んだことがある、自殺を考えたことがある、過去三ヶ月以内に自殺未遂をしたことがある人は他のティーンよりもはるかに少なく、自らのジェンダー・アイデンティティについての混乱や、同性への性的に惹かれた経験も低いです。

コミットしているクリスチャンは、私たちが調査したほぼすべての項目において、リスクを伴う行動やメンタルヘルスの問題の割合が低い結果が出ましたが、名目上クリスチャンは、調査対象となったすべてのティーンたちの世界平均に非常に近いことが分かりました。

世界のティーンの宗教的習慣

私たちは、信仰コミュニティで集まる、聖典を読む、祈る、などのティーンたちの宗教的習慣を調査しました。以下の表は、イスラム教徒、クリスチャン¹、および他の宗教²のティーンたちがこれらの分野でどのように行動しているのかを表しています。



¹ イスラム教徒のサンプル集団はインドネシアとエジプトに集中しています。ナイジェリア、インド、ケニアの数はそれよりも小規模でした。

² ティーンの世界的な宗教別分布については、7 ページを参照。

聖典の読み方

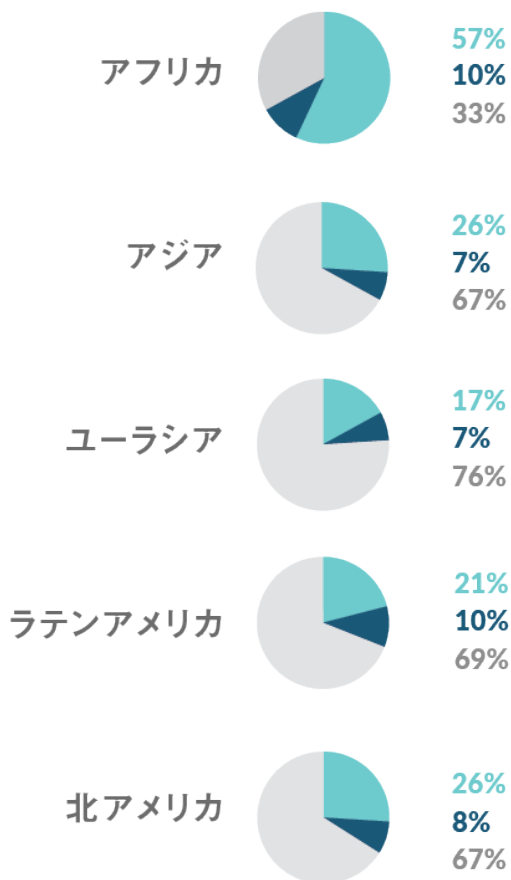


ティーンたちの
52%が、宗教の
聖典を自分で
読んだことがない
と答えています。

私たちが調査したすべてのティーンたちの中で、イスラム教徒が最も宗教的でした。10人に9人のイスラム教徒の若者が、信仰心が自分のアイデンティティの重要な一部であると答えていて、他の宗教の若者よりもはるかに高い割合を示しています。また、イスラム教徒の若者は、宗教的な習慣に関しては最も規律を守っています。イスラム教徒のティーンの61%が毎日または毎週モスクに行くと考えていますが、クリスチャンの36%だけが同じ頻度で教会の礼拝に出席していると答えています。さらに、5人に1人以上のクリスチャンの若者は、教会に全く行かないと回答しています。

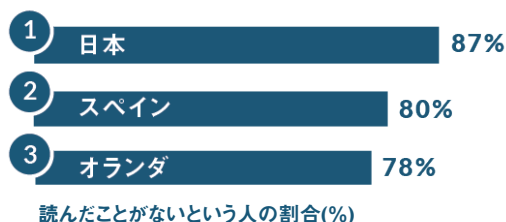
教会への出席

- 毎週またはそれ以上の頻度
- 毎月
- 年に数回以下



私たちの調査では、イスラム教徒の若者は、宗教的な聖典を読んだり、祈ったりすることに関して最も規律を持っています。毎日聖書を読んでいるクリスチャンのティーン(11%)の数と比較すると、イスラム教徒の若者は、3倍以上の割合で毎日コーランを読んでいます(36%)。またクリスチャンのティーンの5人に2人は、自分で聖書を読んだことがないと答えています。

聖典を読んでいない国



聖典を読んでいる頻度より、祈りの習慣をもっていると答えるティーンの比率の方がはるかに高いです。宗教に関係なく、ティーンの42%が毎週または毎日祈ると答えています。自称クリスチャンのティーンの41%、他の宗教のティーンの33%が「毎日祈る」と回答しているのに対して、イスラム教徒のティーンの72%が毎日祈ると回答していて、最も規律を守っています。

アイデンティティとしてのスピリチュアリティ



41% の教会に出席していない
ティーンが、誘われたら行くと回答

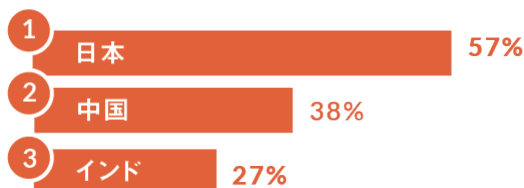
34% が「わからない」と回答

世界中のティーンたちは、宗教に関係なく、信仰やスピリチュアルな概念に対してオープンです。世界的に3人に2人のティーンが、信仰の旅路は自らのアイデンティティの重要な部分であると答えています。注目すべきは、無宗教と答えたティーンの半数近く(44%)がこのように回答していることです。

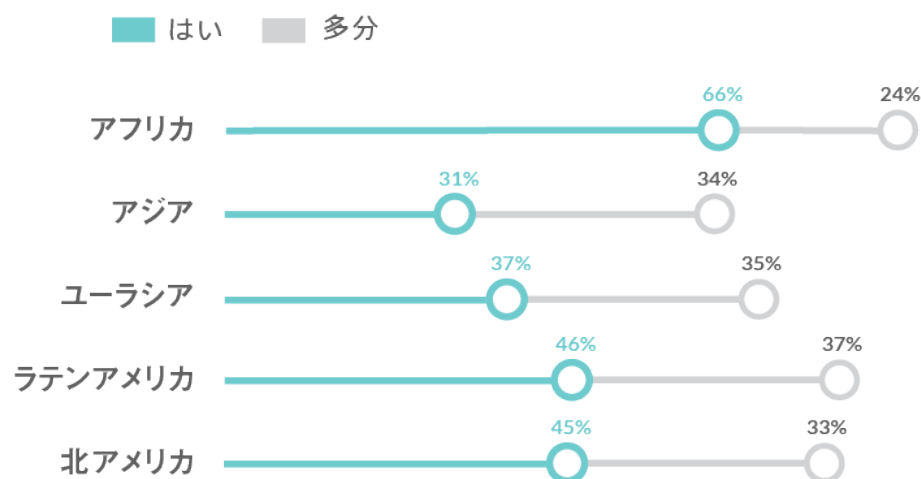
また彼らは教会に誘われたら行くと回答しています。教会に出席していないティーンの40%は、招待されたら行くと答え、さらに34%は、「わからない」と答えています。「行かない」と答えているのはわずか4分の1です。この統計は、現代のティーンたちが信仰について学ぶことに関してオープンな求道者であることを示唆しているようです。

この統計はまた、ティーンたちが生活の中で出会ったクリスチャンに対して良いイメージを持っていることを明らかにしました。クリスチャンではないティーンの70%が、彼らが知っているほとんどのクリスチャンは親切で思いやりがあると回答しています。しかし、一部のアジア諸国では、かなりの数のティーンが、全くクリスチャンを知らないと述べています。

私はクリスチャンを知らない



教会へ行くことに肯定的



「全てが真実」とされる時代

今日のティーンたちは、1つの宗教だけに真理があるという考えには懐疑的です。世界のティーンたちの半数以上(52%)が、すべての宗教が同じように正当な真実を教えていると信じています。クリスチャンのティーンの間でも、53%がこの考えに同意しています。イスラム教、仏教、ヒンドゥー教などの宗教のティーンは、さらにこの比率が高いです。

この考え方が宗教や地域を超えて若者に共通して表れていることから、これはこの世代が信仰にオープンであることの結果なのかもしれません。実際に、信仰が自らのアイデンティティの重要な部分であると答えたティーンは、この考え方を持っている比率が低くなるのではなく、高くなります(67%)。これは、現代の世代の興味深い矛盾を示しています。若者たちの多くは、「真実はどこにあるのか」という排他的な見方を持つことなく、信仰の歩みは彼らのアイデンティティの重要な部分であると断言しているのです。クリスチャンのティーンでさえ、この考え方に影響を受けているようです。クリスチャンのティーンの決して少なくない割合(30%)が、罪の赦しはイエス・キリストへの信仰に限られているという教えに同意していません。

世界のティーンたちの52%が、すべての宗教が同じように正当な真実を教えていると信じています。

ティーンたちの46%は、自分と同じ信仰を持っていない人と信仰について話さないと答えています。

信仰は、主に個人的なものであり、分かち合うものではありません。約半数(46%)のティーンたちが、宗教的、あるいは信仰の話題について、自分と同じ信仰を持っていない人とはまったく話さないと答えています。約10人のうち3人が、毎月またはより頻繁に、これらの信仰の話をすると答えていて、クリスチャンのティーンは、伝道している割合が平均と比べてあまり高くありません。

信仰について話すこと

ティーンたちが自分と同じ信仰を持っていない人と信仰について話す頻度(毎月またはそれ以上の頻度)

全てのティーン クリスチャン イスラム教徒 その他の宗教

28%

32%

46%

35%

この調査では、クリスチャンのティーンの44%が、自分の信仰を他の人と分かち合う責任があると思っていないことがわかりました。

結論

このティーンたちの宗教的な態度や行動の全体像は寸描であることを覚えておくことは重要です。これらの習慣は若者の生活の中で固定されたものではなく、年齢を重ねるごとに大きく変化する可能性があります。しかし、現段階でこの調査はティーンたちに関する貴重な洞察と、いくつかの実用的な示唆と適用を与えてくれています。

- **この世代の信仰に関するオープンさを生かす**

この世代は信仰についてオープンで、多くの未信者は教会を訪れる意思があると答えています。また、クリスチャンは親切で思いやりのある人だという肯定的な認識をすでに持っています。私たちが思っている以上に、ティーンたちはキリスト教について学びたいのかもしれませんが。ティーンたちと信仰についての会話の場をどうやって増やしていけるのでしょうか。

- **キリストに従うことは、アイデンティティであり、習慣である**

キリスト教の中心的な信条を信じ、聖書を読むこと、祈る習慣を組み合わせ実践しているクリスチャンのティーンは、名目上クリスチャンやその他のティーンと比べて明確な違いを生み出しています。このような中心的な信条と実践に焦点を当てた弟子訓練は、彼らの人生の様々な領域において変化をもたらす可能性があります。

- **排他的な真実は存在する**

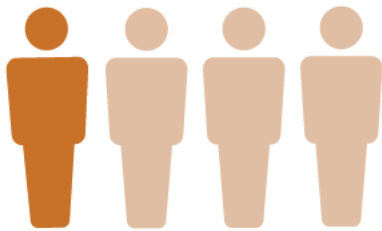
この調査に回答したクリスチャンのティーンは、排他的な真理の見方にコミットしたり、その真理を他の人と分かち合うことに前向きでないようです。私たちはどうすれば彼らが福音の独自の主張を理解し、寛容さと受け入れを説く文化の中で福音に生きることを導き、助けることができるのでしょうか。



個人的な体験と葛藤

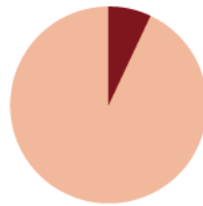
本調査で得た考察

ティーンたちの多くは、孤独、うつ、高い不安、自殺願望と自殺未遂を報告し、精神的な健康に苦しんでいます



4人に1人

世界のティーンたちの4人に1人が、過去3ヶ月以内に自殺願望を持っていたと報告しています



14人に1人

14人に1人が過去3ヶ月以内に自殺を試みたと回答

メンタルヘルスに関しては男子よりも女子の方が葛藤を経験しており、自殺未遂をしたことがある割合が約2倍になっています



世界のティーンたち



10人に3人

世界的に、10人に3人のティーンが過去3ヶ月間に性的な行為をしたと報告しています

注: これは未婚のティーンについての数字です。

クリスチャン



その割合はクリスチャンの間ではさらに高い(3人に1人)



5人に1人

5人に1人のティーンが過去3ヶ月以内に同性に性的に惹かれたと報告しています

メンタルヘルスについて

思春期は、様々な困難で満ち溢れる時期です。ティーンたちは、自分が何者であるのか、または自分が何者になりつつあるのかという問いに取り組んでいます。得意なことは何か、人生を通して何をしたいのか、そして言うまでもなく恋愛関係を求め、グループ内での居場所を模索しています。若者たちの中では様々なことが起こっていて、この調査でティーンたちは、いくつかの深刻な問題に直面していることを素直に語ってくれました。

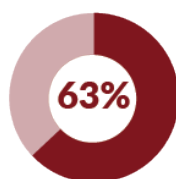
ティーンの3人に2人が孤独を、半数以上が高い不安感を、そして約半数がうつを報告しています^[1]。ティーンたちは、過去3ヶ月間の間に経験した彼らの個人的な体験や葛藤を報告しています。

データは2020年2月から3月の間に収集されました。基本的にはティーンたちは、コロナウイルスのパンデミックによって引き起こされた世界的なロックダウンや隔離による広範囲に渡る影響を受ける以前の生活に関して報告していることになります。

メンタルヘルスの世界的傾向

この3ヶ月の間に、私は以下の経験をしました

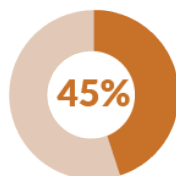
孤独感



高い不安感



うつ



1 注意:これらは必ずしも臨床的なうつ病や不安のレベルではありません。

ティーンたちは、提供された用語を自ら解釈し、それらを経験したと感じた場合に自己申告しています。

また、ティーンたちに、過去3ヶ月以内に自殺願望があったか、または自殺未遂をしたことがあるかどうかを尋ねました。

世界的にはティーンたちの4人に1人が自殺願望を持っていると報告されていて、4カ国では3人に1人以上の割合が自殺願望を持っています。自殺願望とは、何気ない突発的な思いつきから詳細な計画に至るまで、様々なものを含みます。

世界的に 4人に1人の若者が 自殺願望を報告

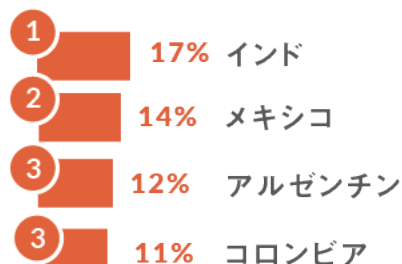
割合が高い国



自殺願望



自殺未遂



もちろん、すべての自殺願望が実際の自殺行為につながるわけではありません。しかし、世界的に見てティーンたちの7% (14人に1人) が過去3ヶ月以内に自殺未遂をしたと報告していて、4カ国では10人に1人以上の割合で自殺未遂が報告されています。¹

この調査で注目すべきことは、ティーン後半の若者よりもティーン前半の若者の方が自殺未遂をの率が高いという点です。

年齢別の自殺未遂



13-15



16-17



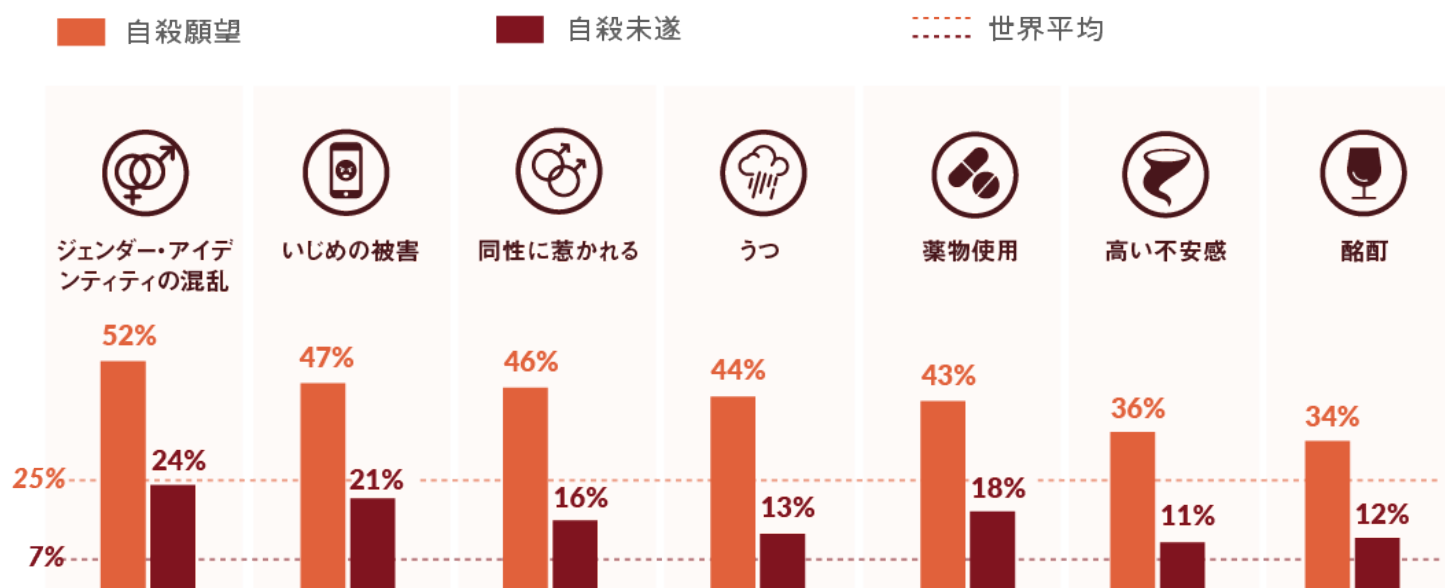
18-19

¹ このデータはティーンたちの自己申告であり、この問題に関する他の研究が土台とする病院の記録や国の事件報告に基づくものでないことを念頭に入れておくことは重要です。

ティーンたちは暗い場所にいる

このトピックに関する調査文献は、LGBTQ（セクシャルマイノリティ・性的少数者）の問題、薬物乱用、いじめ、不安や抑うつ症状など、若者の自殺リスクと関連するいくつかの要因を指摘しています。¹ 私たちの調査でも、同様の関連性が明らかになりました。ジェンダー・アイデンティティに悩んでいるティーンや同性愛的指向に悩んでいるティーンは、オンラインでいじめの被害を受けていると報告しているティーンや、精神衛生上の問題に対処している若者と同様に、自殺リスクははるかに高いです。アルコールや薬物の使用は、自殺願望や自殺未遂との高い相関関係があることも認められました。

自殺リスクの上昇と関連する7つの要因



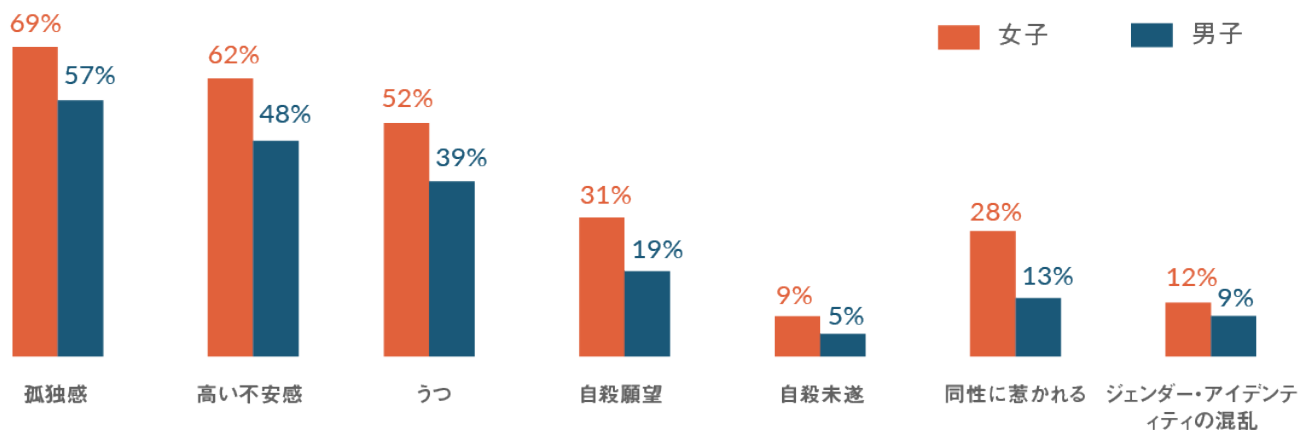
自殺未遂は、自殺願望のように自らの命を軽んじる無謀な行動から、計画的で具体的な計画に至るまでのものがあります。ティーンたちが自分の命を絶とうとするきっかけとなるのは必ずしも一つの出来事ではなく、小さなステップや思考の積み重ねかもしれません。私たちの調査でティーンたちが報告した自殺未遂の中には医療的な介入が必要なほど深刻なものではないかもしれません。

しかし、どのような状況であれ、このデータは、非常に苦しい状況を表し、絶望的な行動へと向かっているティーンたちがいることを示しています。このデータは、この問題の深刻さと、ティーンたちの生活の中で蔓延していることに関して、立ち止まり振り返る機会を与えてくれます。自殺に関してデータを見るうえで、これらの数字やサンプルのパーセンテージは、実際の若い人々の命を表しています。つまり、どんな数字であっても「多い」のです。

¹ CDC WONDER Online Database, Underlying Cause of Death, Multiple Cause of Death files 2015-2017. AmericasHealthRankings.org, 2020年時点。

女子の方が、葛藤が顕著

ティーン的女子は、精神的な健康状態に関してティーン男子よりもはるかに多くの葛藤を経験しています。女子の方が、自分が経験している葛藤を言葉にすることが自然にできるからなのかもしれません。どちらにせよ、女子と男子の間の深刻な違いは、地域や宗教を越えて観察されています。

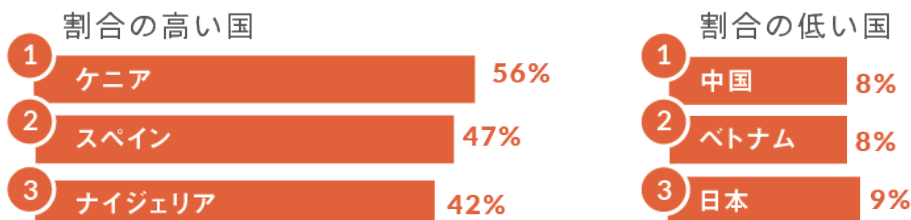


ここで注目すべきは、「コミットしているクリスチャン」であることによる変化がないことです。「コミットしているクリスチャン」の方が個人的な葛藤の割合は全体的に低くなっていますが、それでもそれぞれの項目で男子と女子の間には大きな差があるのです。

ティーンたちと性

思春期は様々な性的な体験を求める時期と言えるでしょう。世界的に、ティーンたちの10人に3人が過去3ヶ月以内に性的行為をしたと答えています。これは様々な行為を含んでいる可能性があります。この質問に対してティーンたちは自ら性的行為の意味を定義しています。また、この統計は結婚外での性的関係のみを表すため、結婚していることを報告したティーンは除外されています。性行為をした比率が最も高いのはアフリカのティーンで、比率が最も低いのはアジアのティーンでした。

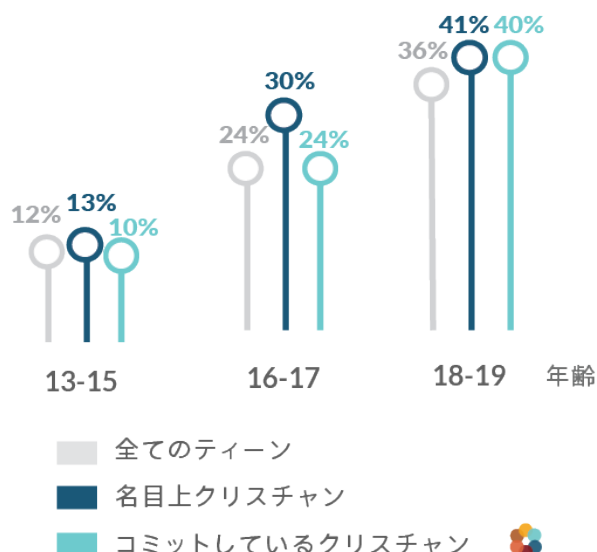
国別にみた性行為の統計



年齢別にみた性行為の統計

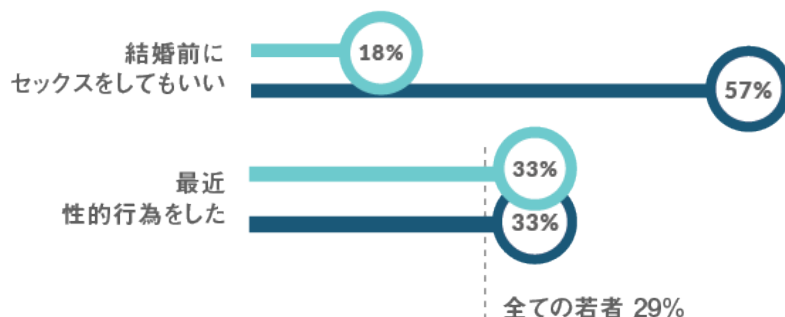
より年齢の高い(18-19歳)ティーンの方が年齢の低い(13-15歳)ティーンと比べて性的な経験をしている可能性が約3倍あります。

しかし、16歳未満のティーンでも10人に1人以上が直近の性的行為を報告しています。さらに、名目上クリスチャンは、全ての年齢においてより高い割合となっています。また、男子も女子も性的行為を報告する割合はほとんど同じでした。

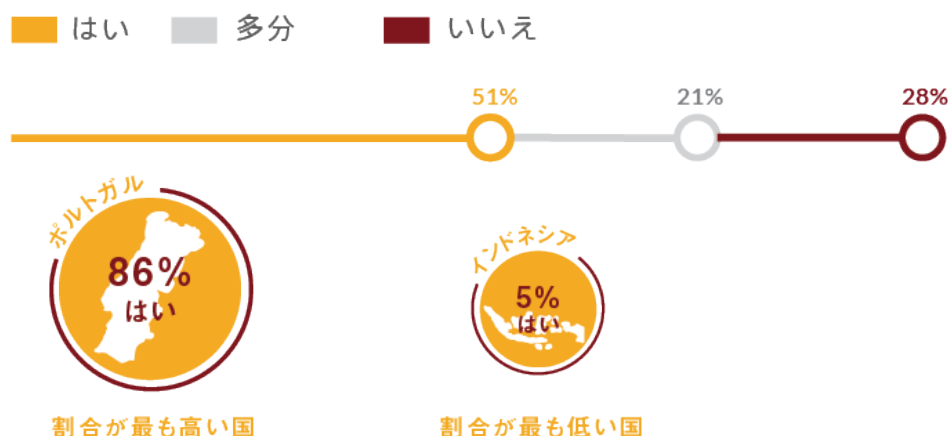


クリスチャンティーンの回答

一部のティーンにとって、性的な行為を行うことに関しては自らの道徳的な価値観と行いが乖離しているようです。クリスチャンは、他の宗教のティーンと比べて直近の性的行為を報告する比率が平均的に高いです。コミットしているクリスチャンは、性的関係は結婚のために守っておく必要があるという聖書の立場を肯定しつつも、名目上クリスチャンと同じように性的行為を行っているようです。



結婚前にセックスをしてもいいと思いますか？



ポルノは深刻な問題

ティーンたちのほぼ半数(48%)がポルノを見ていることを認めています。

過去3ヶ月以内にポルノを見たことがある男子の割合は女子よりも極めて多い(56%対40%)です。

また、年齢別のデータでは、より年上のティーンのほうがより年下のティーンよりもポルノを見ている傾向があります。しかし、若いからと言って、このようなことから守られているわけではありません。13~15歳の間では、5人に2人が最近ポルノを見たことがあると答えています。

ティーンたちの
48%が
最近ポルノを
見たと答えています。

年齢別のポルノの使用状況



クリスチャン・ティーンズの回答

■ コミットしているクリスチャン 
■ 名目上クリスチャン

最近ポルノを見た



結論

ティーンたちが報告している葛藤は私たちに深刻な懸念をもたらします。それぞれの若者の状況は異なり、彼らが直面している問題に1つの答えはありません。しかし、ティーンたちが経験している彼らの生きる現実の状況と深刻さを認識することが重要です。共感から行動に移す際に考慮すべきことをいくつか挙げてみましょう。

- **クリスチャンのティーンは、性の分野での訓練を必要としています。**

今日の若者の多くは、性を結婚という神聖な文脈から切り離し、単に個人の快楽のための行為として扱っています。コミットしているクリスチャンは、結婚前のセックスが間違っていることを理解してはいますが、彼らの道徳的な価値観が彼らを性行為から守っているわけではありません。聖書に書かれていることをティーンたちに教えるだけでは十分ではないのです。どのようにしたら若者たちを、性の贈り物を大切に、管理するより聖書的なライフスタイルへと導くことができるでしょうか。

- **ポルノの利用は、この時代の重要な問題です。**

このデータは、年齢や宗教がポルノを見ることからティーンたちを守ることができないだろうということを表しています。キリスト教信仰を保持し、キリスト教の教えに忠実なティーンでさえ、この分野で葛藤しています。

- **女子はさらなるサポートを必要とする場合があります。**

性別による葛藤する割合の違いは明白です、女子の間での高い比率ははっきりしています。コミットしているクリスチャンであることは、全体的には助けになりますが、男女の差に変わりはありません。女子が直面しているかもしれない特有の葛藤を考慮しつつ、成熟した信仰を持った大人の女性がこの次世代を訓練するためには、どうしたらよいのかを考えてみましょう。



インターネット生活と その影響

本調査で得た考察



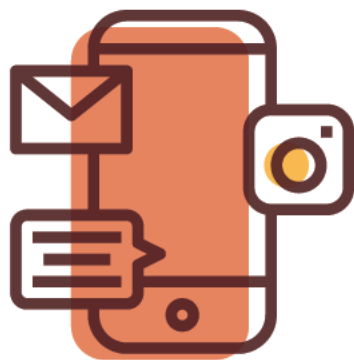
ティーンたちは毎日平均
7時間23分オンラインで
時間を過ごしている



ティーンたちの
94%は、
毎日動画を見ている



インターネットのヘビーユーザー
(毎日10時間以上)であるティーンの方が、
メンタルヘルスの葛藤を経験している



ティーンたちの
大半は、
**SNSが自分の
人生の満足度に
貢献している**
と答えている

64%

ティーンたちの
64%が
毎日1時間か
1時間弱
SNSを
利用している



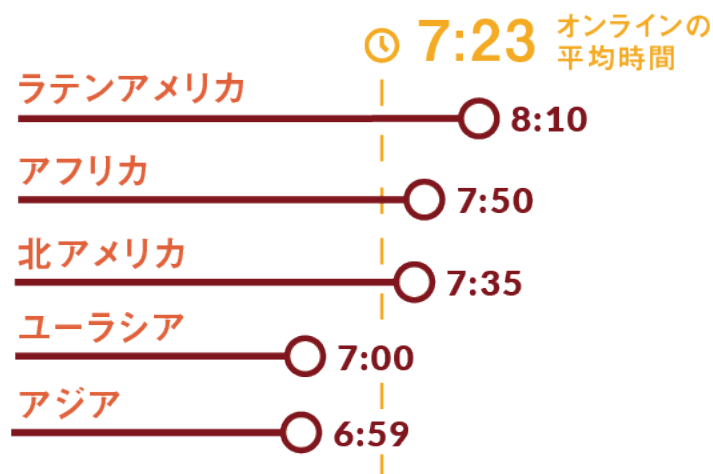
オンラインで過ごす時間

この世代は今までで、最もインターネットに繋がっている世代です。今日のティーンたちはインターネットで育ち、幼い頃からスマートフォンを手にしていて、SNSのない世界を知らないのです。

インターネットに接続できることがこの調査の参加の前提条件です。インターネットを介す繋がりがティーンたちの見解、価値観、行動に与える影響を調査することが本調査の主な目的の一つでした。

ティーンたちはどのくらいの時間をオンラインで過ごしているのでしょうか。ネットに繋がっている間、彼らは何をしているのでしょうか。テクノロジーの利用は、彼らの生活の他の事柄にどのような影響を与えているのでしょうか。これらは、この調査で取り上げられた質問の一部です。

調査対象となった20カ国で、ティーンたちは、毎日平均7時間23分をオンライン上で過ごしています。ブラジルのティーンは最も長く、毎日9.5時間近くオンラインで過ごしていて、一方で中国のティーンは毎日5.5時間と、オンラインで過ごす時間が最も少ないと回答しています。



国

9:29	ブラジル
9:07	インドネシア
8:29	アルゼンチン
8:28	ナイジェリア
7:54	ロシア
7:40	ケニア
7:35	アメリカ
7:34	インド
7:22	メキシコ
7:22	南アフリカ
7:19	コロンビア
7:19	イギリス
7:08	ポルトガル
6:50	ベトナム
6:45	スペイン
6:43	エジプト
6:42	オランダ
6:29	ルーマニア
6:03	日本
5:24	中国

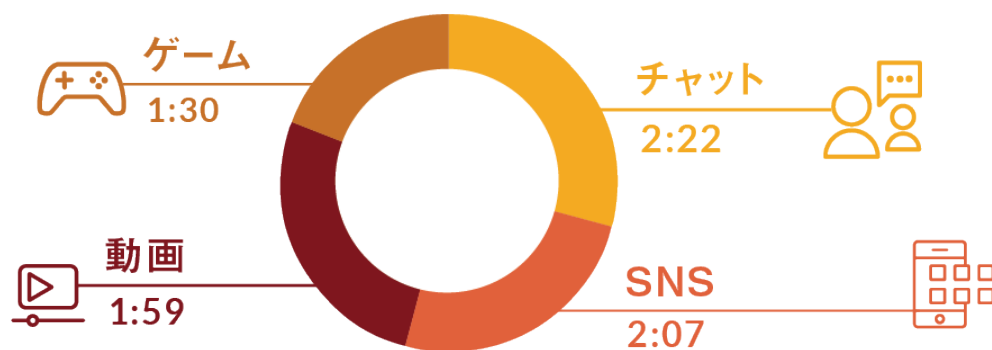
ティーンたちは、
毎日7時間
オンラインで
時間を過ごしている



インターネットの使い方

ティーンたちは、オンラインで過ごすこれらの時間何をしているのでしょうか。彼らは通話、テキストメッセージ、またはビデオチャットに最も多くの時間を費やすと答えています。2番目に多くの時間が使われているのがSNSで、その後にオンラインで動画や映画を見るが続き、最後にゲームがきます。

世界的な用途別の利用時間



使用時間が高い国

一部の国のティーンは、これらの利用用途に世界の平均よりもはるかに多くの時間を費やしています。

チャット



SNS



動画



ゲーム



費やしている累計時間は、ティーンたちが何を面白いと思っているかを測定する唯一の方法ではありません。彼らが定期的に繰り返すオンラインのアクティビティもまた、彼らのインターネットとの関わり方を描いています。ティーンたちの間で最も人気のあるオンラインアクティビティは、動画を見ることでした。

回答者の94%が毎日動画を見ていると答えています。2番目に人気なのは、SNSです。ほぼすべてのティーンたちが毎日SNSを使用していますが、64%のティーンは、1時間またはそれ以下の時間をSNSに費やしていると答えています。

全体的に、ティーンたちはSNSに対して様々な反応を示していました。多くはそれをポジティブな存在として認識していて、5人に3人のティーンが自分の生活に満足感を与えてくれると答えています。

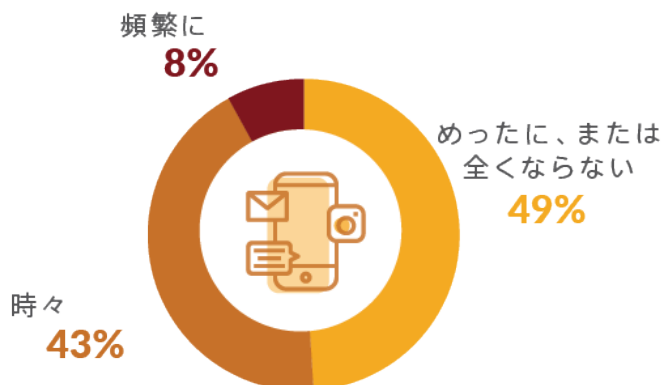
しかし、ティーンたちの半数以上はSNSの利用によって時々、または頻繁に悲しみ、不安、落胆を感じると答えています。



94%のティーンが
毎日動画を見ている

64%のティーンは
毎日1時間または
それ以下の時間を
SNSに費やしている

SNSを見ると悲しみ、不安、落胆を感じる

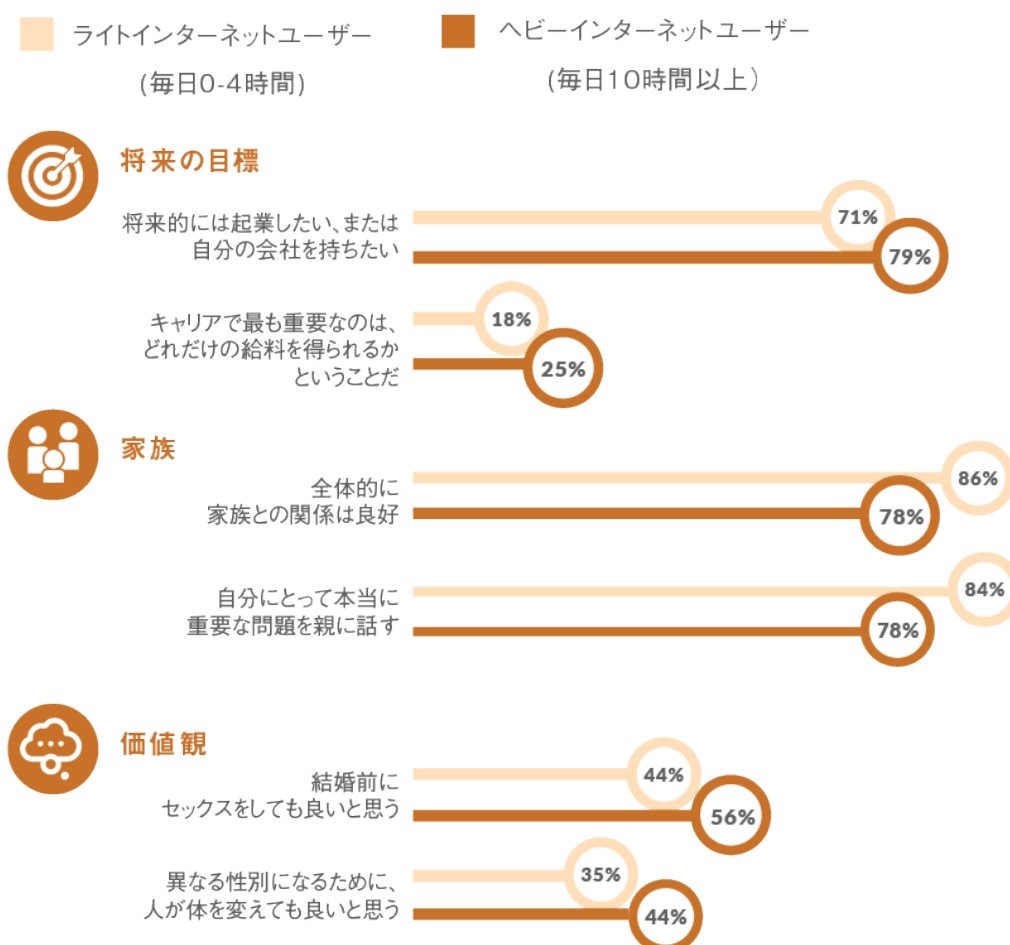


インターネットの影響

利用習慣やオンラインでの時間について、ティーンたちから様々な回答が寄せられました。そこからティーンたちをインターネットのライトユーザー（毎日0～4時間）とヘビーユーザー（毎日10時間以上）に分類しました。この視点からデータを見ると、いくつかの興味深い発見があります。

ヘビーユーザーであるティーンたちは、人生の目標に関してライトユーザーのティーンよりも起業家資質で、金銭的な事柄に生涯の目標を置いている傾向があります。また、家族との関係においても違いが表れています。ヘビーユーザーは、全体的に家族との関係が良いと答えているティーンが少なく、また彼らにとって本当に重要な問題について、両親に話をするのは滅多に、または全くないと答える傾向にあります。

ネット利用と人生経験

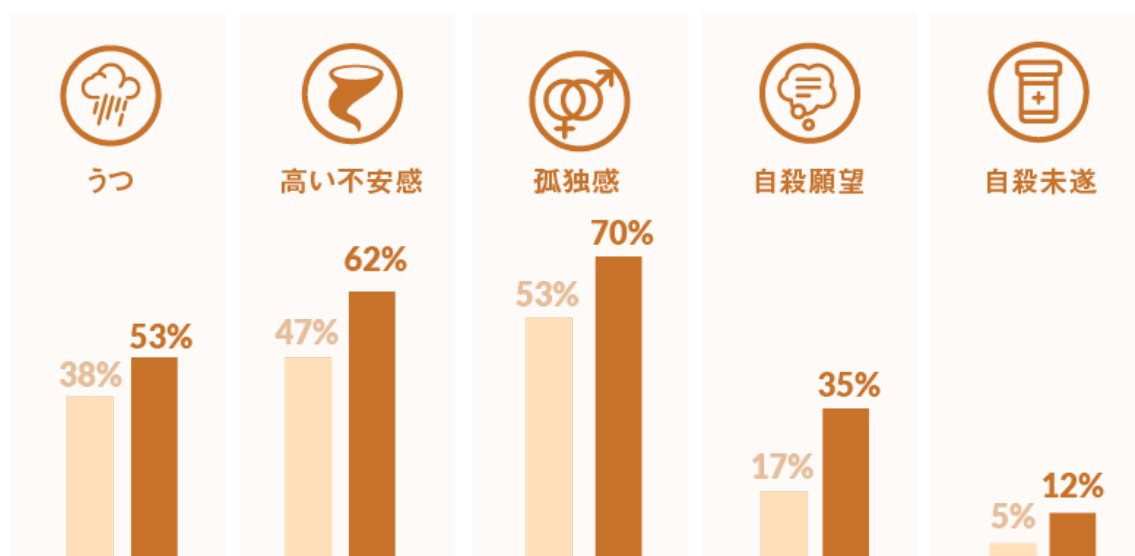


データの傾向から、ネットとの繋がり具合が特定の文化的視点や意見と結びついていることがわかります。例えば、ヘビーインターネットユーザーのティーンは、結婚前にセックスをしてもいい、また体を変えて別の性別になってもいいと答える傾向が高いです。オンラインで多くの時間を費やしているティーンが、この世界のより広い価値観や道徳に触れていることを考えると、あまり驚くことではないのかもしれません。

ネット利用と個人的葛藤

■ ライトインターネットユーザー (毎日0-4時間) ■ ヘビーインターネットユーザー (毎日10時間以上)

この3ヶ月の間に、私は以下の体験をしました



データの中で最も驚くべき相関関係は、ティーンたちのインターネット利用量を、彼らの実生活と重ね合わせたときに明らかになりました。ヘビーユーザーのほうがメンタルヘルスにおいてより悩んでいます。毎日10時間以上オンラインで過ごしているティーンは、ライトユーザーに比べて不安やうつの割合ははるかに高いと報告されています。自殺を考えたことがあり、過去3ヶ月以内に自殺未遂さえしたことがある割合が2倍以上あります。

これらの調査結果は非常に懸念されるべき事柄です。しかし、オンライン上の時間とティーンたちの個人的な葛藤の因果関係はまだ明らかではありません。このデータは、それらの間に何からの相関関係があることを示唆していますが、単に一方がもう一方の要因であるとは断定できません。重度のインターネット使用が若者の生活の中で絶望の感情を煽る可能性は確かにあるでしょう。その一方で、すでにメンタルヘルスに苦しんでいるティーンたちが、現実逃避の手段としてスマホなどに向かっている可能性もあります。あるいはこの両方ともある程度当てはまっている可能性もあります。

結論

思春期には、ホルモンの変化、社会的な不安、その他の混乱など、メンタルヘルスに悪影響を与える要因が多くあることを忘れてはいけません。スマホなどに費やす時間は、今日のティーンたちの生活や個人的な経験に影響を与える複雑に組み合わさった要因の一要素に過ぎません。これらのことはインターネットで繋がった世代と関わる上でどのような意味を持つのでしょうか。検討すべきアイデアをいくつか紹介します。

- **ティーンたちの間で動画は非常に人気**

動画は若者と繋がるための有力な方法です。ティーンたちの94%が毎日動画を見ていることを思い出してください。私たちはキリストのために、この魅力的な媒体をどのように利用してティーンたちに届くことができるのでしょうか。

- **SNSは様々な反応を生む**

ほとんどのティーンたちは毎日SNSをチェックしていますが、そこに多くの時間を費やすことはありません(64%は毎日1時間以下を費やす)。さらに、ティーンたちは、SNSが彼らを助けているのか、害しているのかで意見が分かれています。ネット上の行動がこの世代に与える影響を整理し、彼らが経験している葛藤を導き、助けるにはどうすれば良いのでしょうか。

- **画面の向こう側にいるティーンたちは、深く悩んでいるかもしれません。**

ネット上で長時間過ごしているティーンは、メンタルヘルスの問題を抱えている可能性が高いです。会話の中で浮上する可能性がある話題に対して、どのような応答を準備しておくことができるか考えてみましょう。



アイデンティティと 人間関係

本調査で得た考察

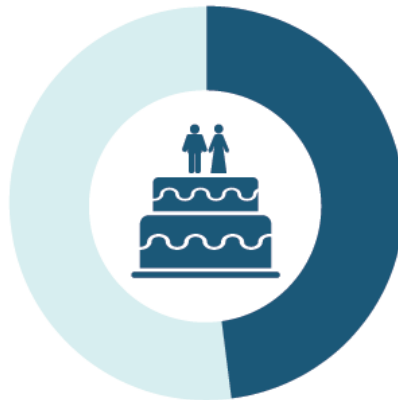
ティーンたちの約半数は、
性別は原則生まれた時の
性別に基づ
いている
と考えて
います



残りの半数は、
個人的な感情や
性的指向性によって
自分で決めるもの
だと考えています



女子は
男子よりも
伝統的な結婚観を
持っている比率が
低い



48%

世界的に
ティーンたちの48%が
結婚は男と女の
間のものだけでは
ないと考えています



10人に1人

ティーンたちの10人に1人は、
総合的に結婚について
聖書的な見解を持っています



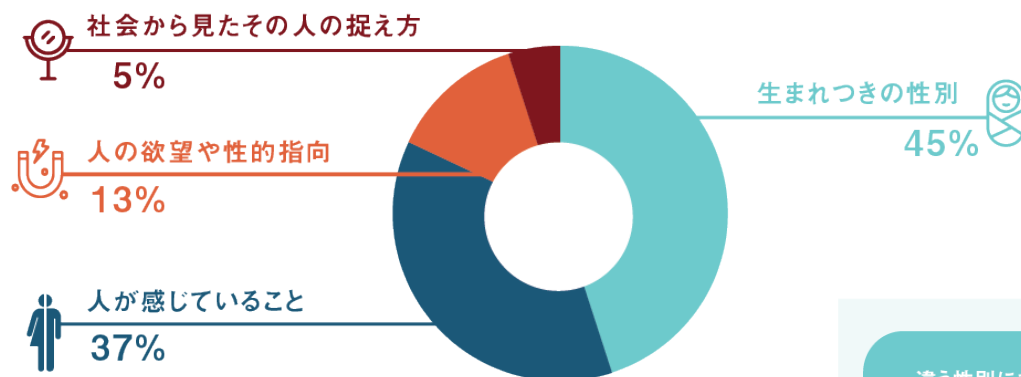
ティーンたちの多くは人間関係に満足していて、
82%が「家族との関係がおおむね良かった」と回答し、
同数が「自分をよく知っている親しい友人がいる」
と回答しています

選択肢としてのジェンダー・アイデンティティ

ティーンたちのアイデンティティと人間関係は複雑で非常に個人的なものです。どのような調査手段も、関係するすべての要素を測定することはできないので、私たちはティーンたちが自分自身と他者を、どのように見ているかについてのいくつかの重要な指標に焦点を当てることにしました。彼らは自らのジェンダー・アイデンティティに対してどのように考え、そしてそれは彼らにどのような意味をもたらしているのでしょうか。彼らは友人や家族との関係にどれほど満足しているのでしょうか。彼らは大人になる過程で、どのような性や結婚などに対する視点を持つようになるのでしょうか。これらの会話は複雑ですが、これらの重要な指標についてこの調査で判明したことは以下の通りです。

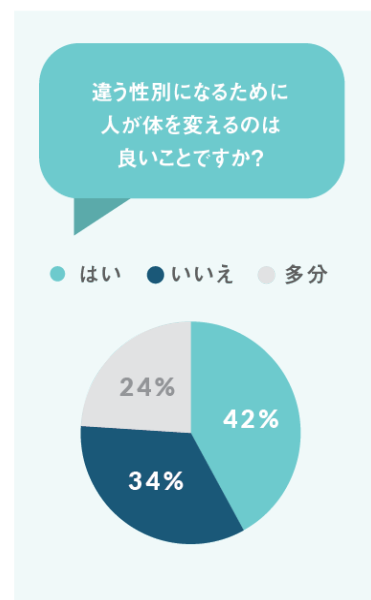
世界のティーンたちの約半数は、性別は生まれながらのものであるという伝統的な価値観を持っています。しかし、今日のティーンたちの残りの半数は、性別は選択、つまり個人的な感情や性的指向に応じて自ら決定することができるものだと思っています。多くのティーンは、性別は客観的な現実ではなく、主観的なものであると思っています。

性別は主に以下のことに基づく

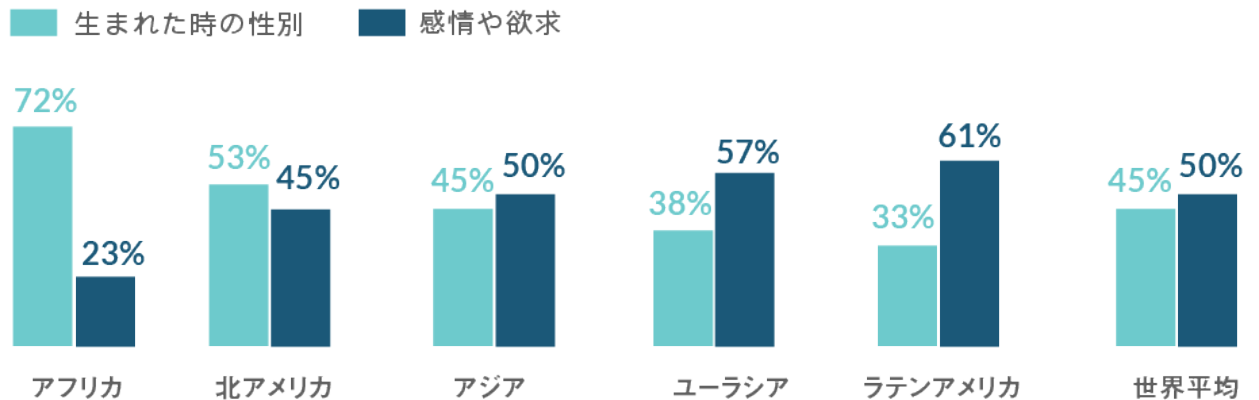


同時に多くのティーンは、自分が異なる性別だと感じたのであれば、それに対して何かをすることができるはずだと感じています。

国際的に5人に2人のティーンは、人が手術によって異なる性別になることは許容できると述べています。

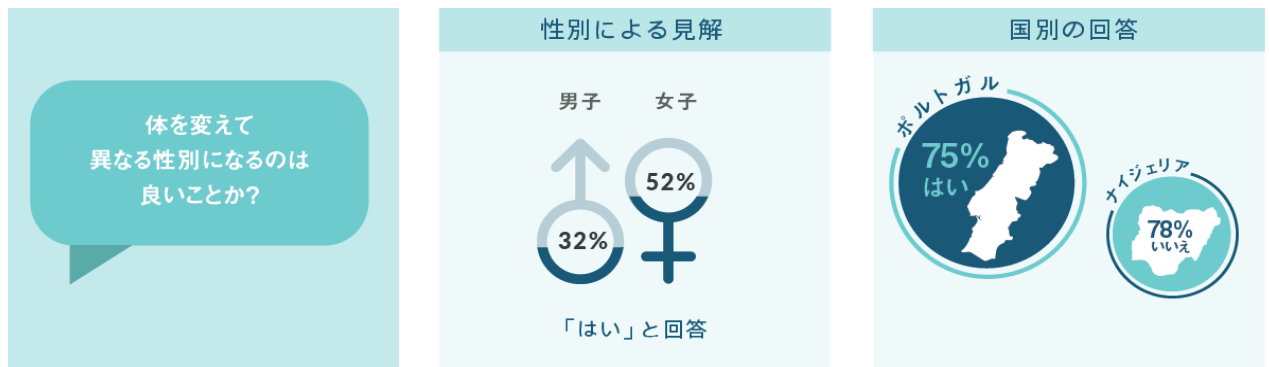


地域別の性への態度



この世代のジェンダーに関する意見は、世界のどこにいるかによって大きく異なります。例えば、ラテンアメリカでは、性別は自ら決められるものだとするティーンは、生まれた時に定まっていると考えるティーンの2倍近くいます。対照的に、アフリカでは、ほとんどのティーンが性別は選択するものと考えていません。アフリカ諸国のティーンの4人に3人近くが、性別は原則的に生まれた時の性別に基づいていると考えています。

ジェンダー・アイデンティティと変化



多くのティーンたちが、性別の問題は主観的であるという概念に同意していますが、調査では、個人的にジェンダーの混乱を経験しているか、自らの性別を変えたいという願望があるティーンは、それに比べはるかに少ないことがわかりました。

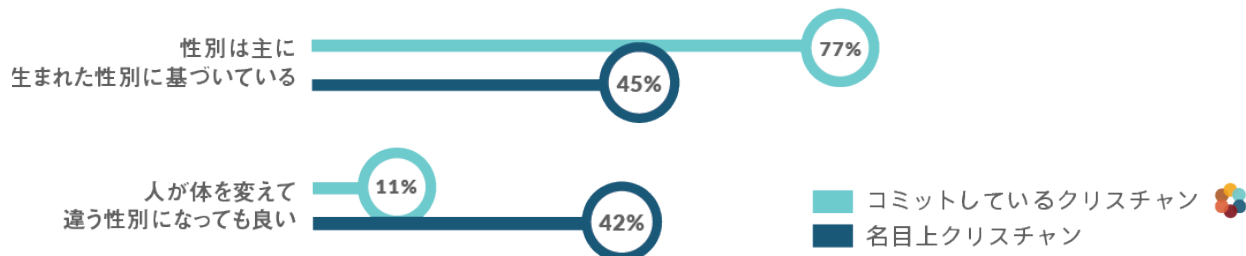
世界的に10%のティーンは過去3ヶ月以内にジェンダーの混乱を経験していると答え、15%は、別のジェンダーのほうが本来の自分だと感じると回答しています。女子のほうが性別のアイデンティティに悩んでいると答えた数が男子よりもわずかに多い結果となりました(12%対9%)。興味深いことに、この話題全般に関しても女子は男子と異なる視点を持っています。女子の大半(59%)は、性別は主に人の感情や願望に基づいていると考えています。それに比べ、あきらかに少ない男子(42%)が同じように答えています。また、異なる性別になるために自分の体を変えても良いと答えた数も、男子より女子の方がはるかに多い結果となりました。(32%対52%)

宗教の影響

ティーンたちの宗教は、ジェンダー・アイデンティティについての彼らの意見に大きな影響を与えるもう一つの要因です。すべての宗教のうち、イスラム教徒は性別の伝統的な見解に最も強く同意しています。イスラム教徒のティーンの62%が性別は出生時の性別に基づいていると言い、続いてクリスチャンの50%、および他の宗教のティーンたちの41%が続きます。宗教を持たないというティーンは、性別は人がどのように感じるかや性的指向(63%)に基づいて自己決定されているという考えが中心となっています。

しかし、中心的な信条を信じ、聖書を読み、祈る習慣を持っているコミットしているクリスチャンのティーンの間では大きく異なっています。コミットしているクリスチャンティーンの10人のうち7人は、性別の伝統的な見解を保持し、性別を変更するために体を変えることが良いと答えたのは10人に1人に留まっています。

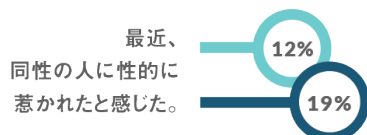
クリスチャンのティーンの回答



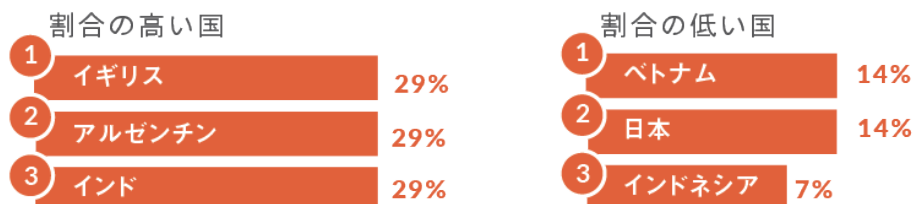
同性愛指向

かなりの数の若者が、同性に惹かれる経験をしたことがあると答えています。世界のティーンたちの5人に1人が、過去3ヶ月以内に同性に性的に惹かれたと感じたことがあると報告しています。名目上クリスチャンは、コミットしているクリスチャンに比べて、その率が高いです。

世界的に
5人に1人の
ティーンが最近、
同性に惹かれたと回答



国別の同性愛指向



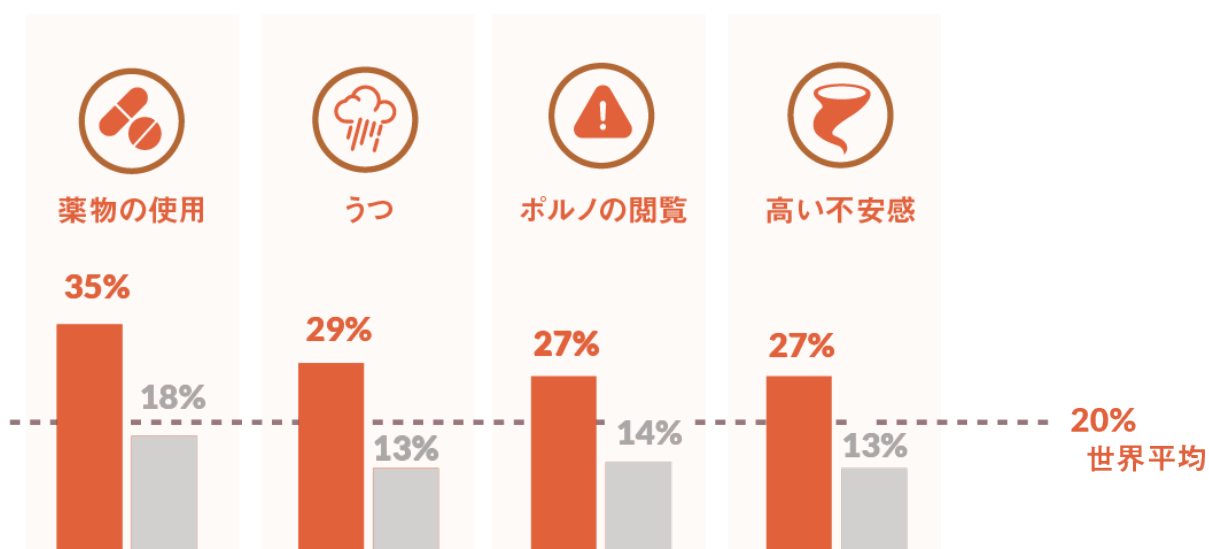
このトピックを他の変数と並べて調べると、いくつかの興味深い関連性が明らかになりました。例えば、女子は男子よりも同性に惹かれる可能性が2倍高い(28%対13%)ことです。また若者の家庭環境も影響を与えているようです。ネガティブな家庭関係があるというティーンは、良い家庭関係がある場合よりも、同性へ惹かれる経験をする率が高いです(30%対18%)。

また、宗教が軽減要因ともなっているようです。何らかの宗教に属しているというティーンは、無宗教のティーン(18%対25%)と比較して、同性に惹かれる可能性が低いです。また、同性愛指向は、イスラム教徒(13%)とコミットしているクリスチャン(12%)の間でもかなり低くなっています。

最後に、同性愛指向は他の行動と関連しているようです。直近で自殺未遂をしたと回答したティーンのうち、半数近く(46%)が自分は同性愛指向について該当すると回答しています。薬物使用、うつ病、高い不安、ポルノの閲覧の要素が当てはまると報告したティーンが、同性に惹かれると回答する率は約2倍です。

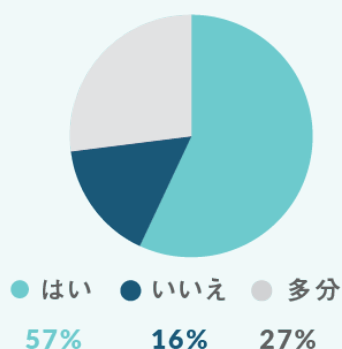
同性愛指向と相関関係にある4つの要素

同性愛指向 ■ はい ■ いいえ

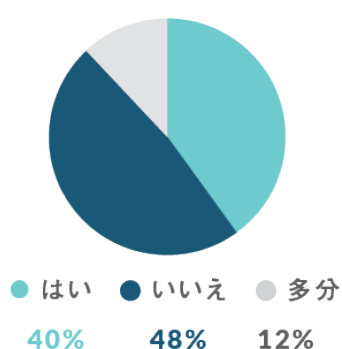


結婚に対する見解

結婚は一生の
コミットメントであるべき？

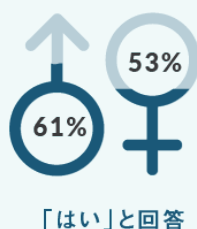


結婚は男女間でのみ
するべきものか？

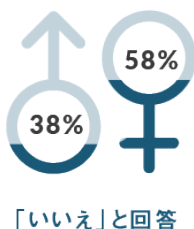


性別ごとの回答

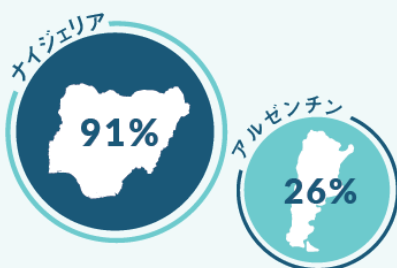
男子 女子



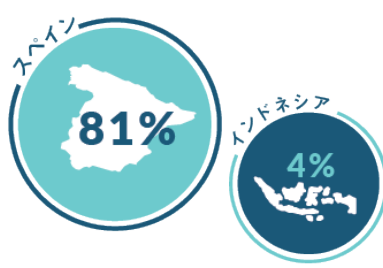
男子 女子



国別の回答



最多/最少の
「はい」の回答



最多/最少の
「いいえ」の回答

私たちはまた、結婚についてのティーンたちの見解を調べました。これらは彼らが将来の人間関係や成人期にまで影響を与えることになります。

ティーンたちの大半(57%)は、結婚は生涯のコミットメントであるべきだと信じていますが、かなりの割合がよくわからない(27%)または同意しない(16%)と回答しています。さらに結婚が男と女の間でのみあるべきだと確信しているティーンはさらに少ないです。約半数(48%)が「いいえ」と答え、より少数が「はい」と答えています(40%)。

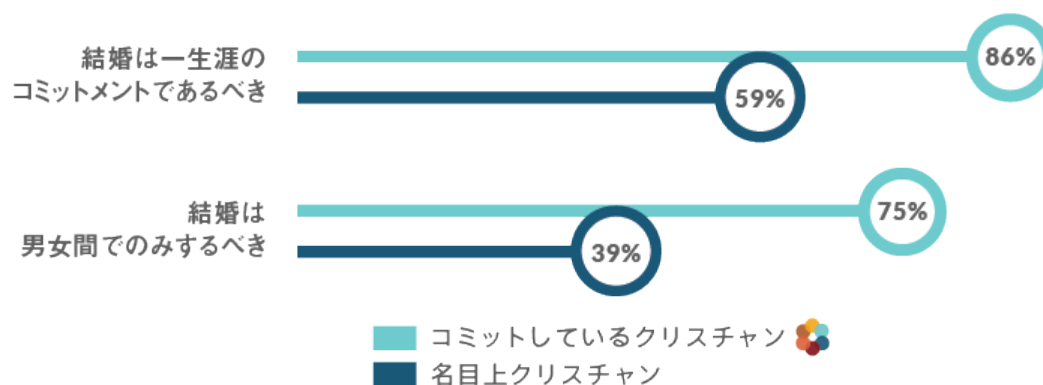
興味深いことに、女子は男子とは異なる結婚観を持っています。平均して、女子は、結婚は生涯の約束であるべきだと考える率が低く(53%対61%)、結婚は男と女だけのものである必要はないと考える率が高いです(58%対38%)。

文化を超えて若者の意見を見てみると、反応は多岐にわたっています。アフリカのティーンたちは、結婚は生涯の約束であるべきだと考える率が最も高く、ラテンアメリカのティーンはその対極に位置しています。

聖書的な結婚観は非常に少数の意見です。
7人に1人のみが結婚は男女間の生涯のコミットメントであるべきで、セックスは結婚という関係のために守るべきだと信じています。

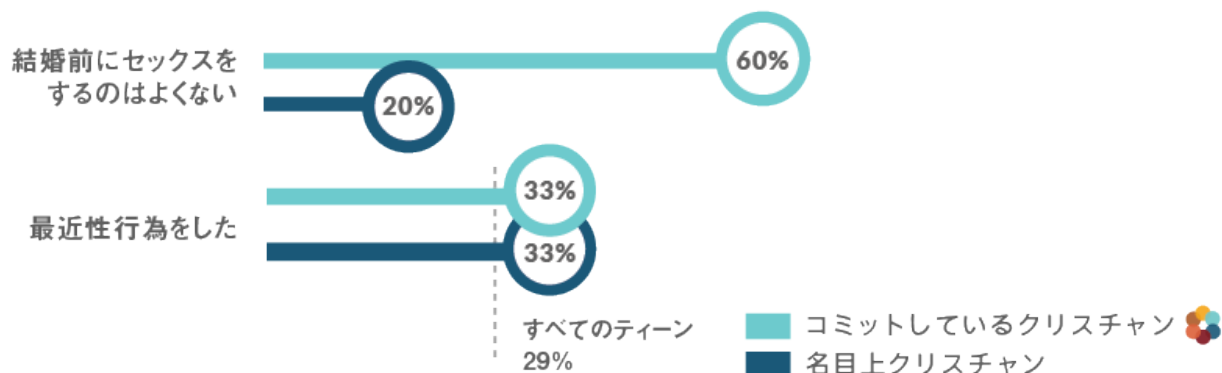
7人に1人の
ティーンが
結婚に関して
聖書的な見解を
持っている

クリスチャンのティーンズの回答



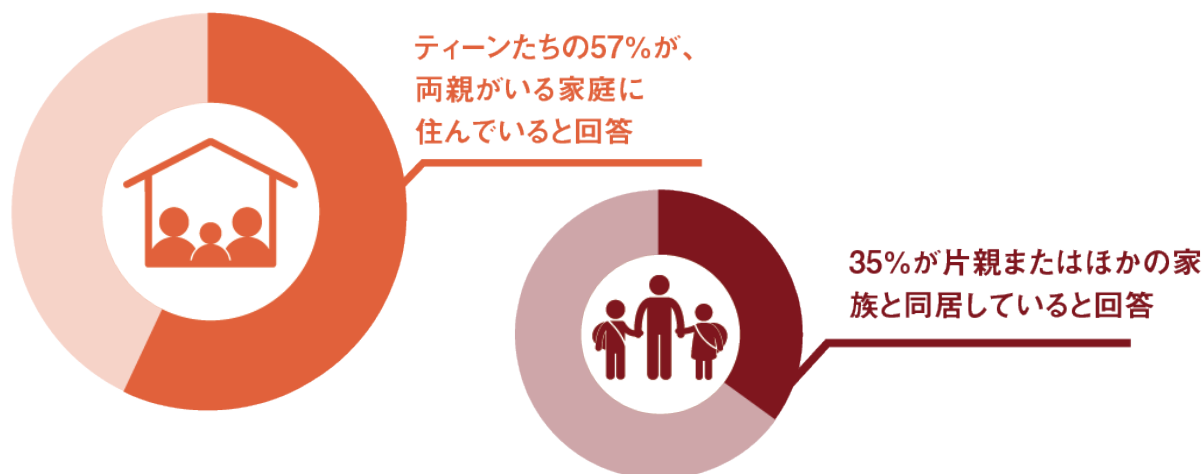
聖書の教えにもかかわらず、結婚前のセックスが許容されると信じているクリスチャンは世界平均(51%)と同じです。むしろクリスチャンのティーンの方が他の宗教のティーンよりも過去3ヶ月以内に性的行為を行っていると答えた比率が高いです(34% 対 26%)。

コミットしているクリスチャンのティーンは、これらのトピックに関して聖書的な見解を持っはいるものの、最近性行為をした可能性も同様に高いのです。



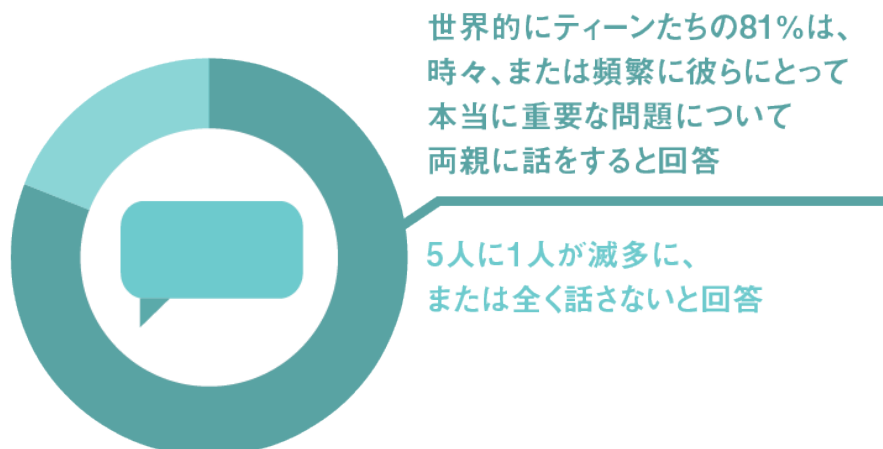
友人や家族との関係

現在のコミュニティに関して、ティーンたちの大多数は、彼らの友人や家族との関係に満足していると答えています。世界的に82%のティーンたちは、家族との関係は総じて良いと答えています。これは、この調査が反映している家族、文化、状況の多様性を考慮すると、驚くべき多さです。



これらの統計が逆になっている唯一の国はインドでした。インドのティーンの約半数(47%)が片親と住んでいると答え、両親と住んでいるのはわずか20%です。それにも関わらず、私たちの調査に参加している20カ国の中で、インドのティーンが最も家族との関係に満足していると回答しています。何とティーンの93%もが家族との関係は総じて良いと答えているのです。

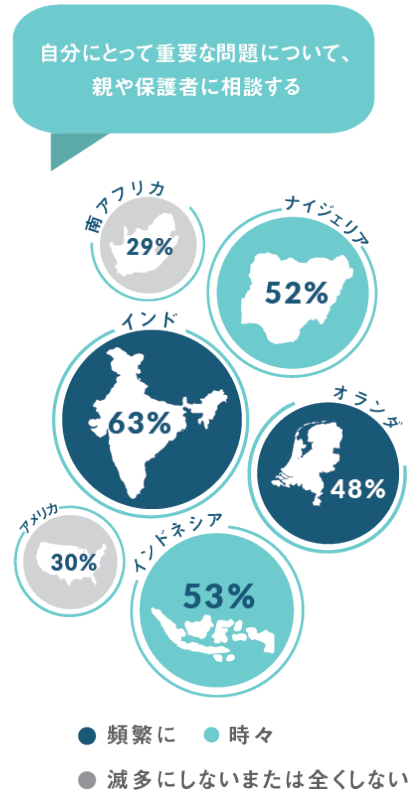
またティーンたちの両親との距離感についての洞察を得るために、どれだけの頻度で重要な会話をしているかを尋ねました。世界的に見ると大多数が、自分にとって重要な話題について時々、または頻繁に両親に話すと答えています。



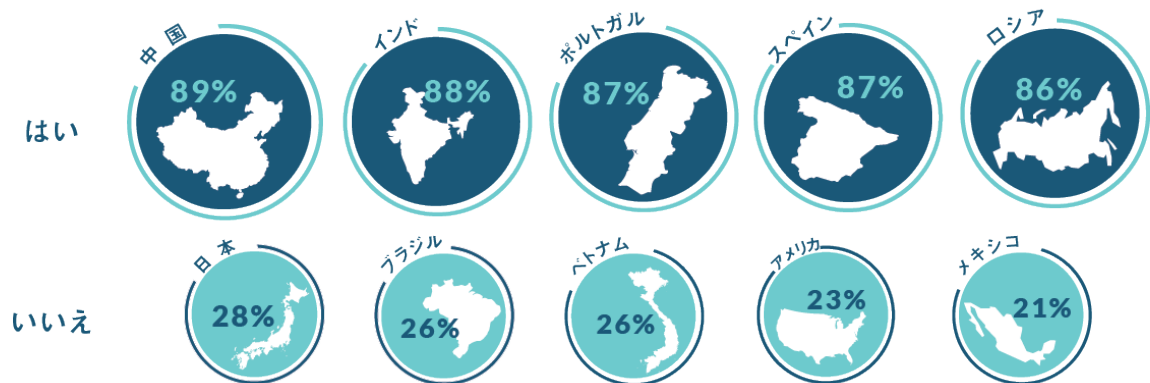
ここでもインドの結果は傑出しています。インドの63%のティーンが頻繁に重要な問題についての両親に話すと回答しています。

その対極に、米国のティーンは重要な会話を頻繁に行っている可能性が最も低いです。また、家族への満足度の面でも米国は最低ランクです。米国のティーンの10人に3人は、家族との関係は総じて良くないと回答しています。

世界的にティーンたちの82%は彼らのことをよく知っている親しい友人がいてと答えています。



私のことをよく知っている親しい友人がいる



また、ティーンたちは、彼らの人生の中で良い友情関係を持っていると回答しています。世界のティーンたちの82%は、自分たちのことをよく知っている親しい友人がいてと答えています。異なる回答が多数あった国は数える程でした。

興味深いことに、宗教や性別は、友人や家族に対する満足度に重要な影響を与えていないようです。男子と女子の間、そして異なる宗教のティーンたちの間でも、親しい友情、家族との良い関係に関しては、彼らが親や保護者と重要な問題について会話をしているかどうかに関係なく、回答は非常に似たものでした。

結論

アイデンティティや人間関係の話題は多面的であり、紐解くのは難しいものです。一人ひとりがそれぞれの背景、経験、意見を持っています。このグローバル世代を特徴づける視点は一つではありません。しかし、この統計から、私たちの理解と対応の指針となりうる一定の傾向を見ることができます。

- **この世代は、ジェンダー・アイデンティティに対する考え方が分かれている。**

今日のティーンたちの半数は、性別は生まれたときに決定されると考えていますが、残りの半数は、個人的な感情や性的欲求に応じて自己決定できるものだと考えています。私たちはどのようにしてこの話題と、またこれらが重要な人生の選択となることについて、ティーンたちと包括的な会話を持つことができるでしょうか。

- **ティーンたちは結婚についてそれぞれの視点がある。**

この世代は、男女間の生涯のコミットメントという結婚の伝統的な視点から遠ざかりつつあるようです。また、ティーンたちの大半は、結婚のためにセックスを待つ必要はないと考えています。結婚のための神の計画を理解するだけでなく、誓約に対してコミットすることの利点をティーンたちが理解できるように、どのように助けることができるでしょうか。

- **女子は男子とは異なる視点や経験を持っている。**

この調査では、女子は男子に比べて結婚に対する聖書的な見解を持っている可能性が低く、ジェンダー・アイデンティティの問題を抱えている可能性も高いことが分かりました。統計は何が起こっているかは明らかにしますが、なぜそれが起きているのか、あるいは、他に何がこの傾向を助長しているのかについては明らかにしていません。私たちは、どのようにして女子に寄り添い、彼女たちの意見、経験、葛藤をよりよく理解することができるでしょうか。

- **ティーンたちは、自分の家族の関係にかなり満足している。**

片親家庭が多いにも関わらず、インドのティーンたちが家族との関係に最も満足していることは興味深い情報です。彼らの家族構成や歩みの中で直面している困難に関係なく、若者たちは一般的に家族を愛していることを示しています。



ティーンたちへの 影響と指導的な声

本調査で得た考察

人生の意味

ティーンたちは、「何が正しく、何が間違っているのか」、「人生の意味は何なのか」などの人生で最も重要ないくつかの問いについて、最も影響力を持っているのは**家族**だと答えています



性別とセクシュアリティ

性別とセクシュアリティについての会話に関して、ティーンたちに最も影響を与えているのは、**SNSと友人**です

ティーンたちは、**宗教的な信仰に関する考えを変える1番大きな理由は個人的な体験**だと回答しています



宗教的な信仰について考えを変える主な理由に、**牧師からの教えを挙げたクリスチャンティーンは比較的少数**でした



コミットしているクリスチャンティーンは、名目上クリスチャンティーンと比較して、**牧師や聖書に助言を求めると回答している割合が4倍**でした

ティーンたちを影響し、指導する声

ティーンたちは様々なことに意見を持っていますが、その意見が単独で形成されることはほとんどありません。私たちは、何がこの世代に最も大きな影響を与えているのかについて関心を持ちました。

導きやアドバイスを求めて、彼らは誰を信頼しているのでしょうか。人生で最も重要な問いに直面したとき、彼らはどのような声に耳を傾けているのでしょうか。また重要な価値観について、何が彼らの考えを変えるのでしょうか。

この調査は全ての要素を網羅しているわけではありませんが、今日のティーンたちがどのように自らの視点を形成しているのかについて、いくつかの洞察を得ることができました。

家族を信頼するティーンたち

ティーンたちは人生で最も重要ないくつかの話題について家族に相談することが多いと答えています。人生の意味や何が正しくて何が間違っているのかについての疑問に関しては、家族が最も影響力を持っています。

友人や仲間、SNSは、ティーンたちへの影響力の上位3位に入っています。それと比べると、彼らのリストの中で教師やカウンセラー、宗教指導者、教科書、オフラインメディアの順位ははるかに低いです。

他にもティーンたちに質問できる領域はたくさんありました。しかし、人生の究極の目的について、また道徳的基準がどこからきているのか、という問いに対する答えは、一人ひとりがどのように行動するかに大きな影響を与えているのです。

人生の意味についての会話



- ① 家族：41%
- ② オンライン / SNS：20%
- ③ 友人 / 仲間：19%
- ④ 教師 / カウンセラー：7%
- ⑤ オフラインメディア：7%
- ⑥ 宗教指導者 / 聖典：7%

正しいか 正しくないか という会話



- 1 家族: 50%
- 2 友人 / 仲間: 16%
- 3 オンライン / SNS: 14%
- 4 教師 / カウンセラー: 9%
- 5 宗教指導者 / 聖典: 7%
- 6 オフラインメディア: 5%

この2つの基本的問いは、ティーンたちが自分たちの世界観を確立していく重要な時期において欠かせないものです。これらは彼らが大人になっても人生の指針として持ち続ける価値観の組み合わせです。

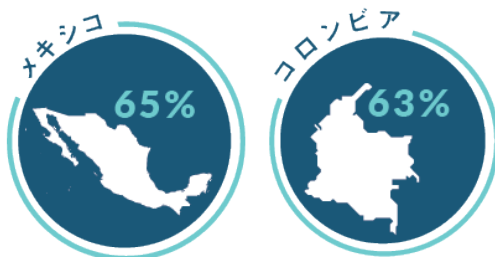
道徳に関しては、ラテンアメリカのティーンは、世界のどの地域のティーンよりも家族に依存しています。5人に3人のラテンアメリカのティーンは、何が正しくて何が間違っているかについて、まず、最初に家族にアドバイスを求めると答えています。

しかし、割合がはるかに低い国でも、選択肢の中で家族が一番多い回答であることには変わりませんでした。

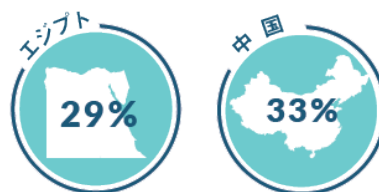
国別の家族の影響力

何が正しくて、何が間違っているかについてのアドバイス、または情報をもらうために、最も話すのは家族である。

割合の多い国



割合の低い国



家族との関係がネガティブだと回答をしているティーンが多い国であっても、家族は重要な助言者であることに変わりありません。例えば、米国はティーンの家族満足度では最下位に位置していますが、何が正しくて何が間違っているか(52%)、または人生の意味(42%)についての情報やアドバイスを最も頻繁に家族に求めると答えていて、これは世界平均よりも高い割合です。これは、家族関係の中につまずきがあったとしても、両親と家族は、ティーンたちの人生において頼るべき存在であり続けていることを表しています。

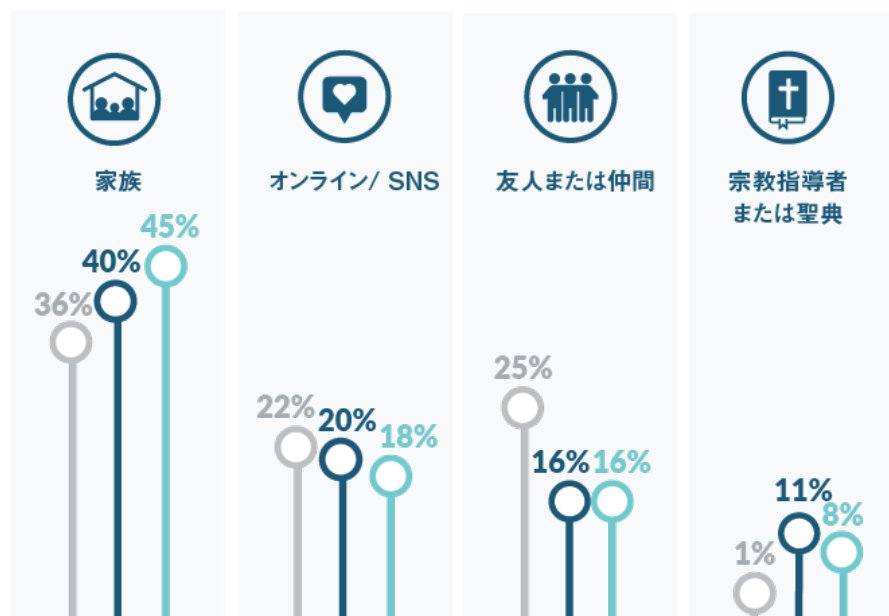
たぶん意外性はないかもしれませんが、ティーンたちの宗教によって、何が彼らに影響を与えるかは少し異なっているようです。クリスチャンは他のティーンよりも、人生の意味についてのアドバイスを家族に求めます。そしてSNSや友人や仲間を求めることは平均よりやや少ないようです。

しかし、人生の意味についてのアドバイスを最も頻繁に牧師や聖書に相談すると答えたクリスチャンティーンは10人に1人以下でした。

宗教別ティーンたちが受ける影響

人生の意味についての情報やアドバイスを、何に最もよく求めるか

■ 無宗教 ■ 他の宗教 ■ クリスチャン



様々なトピックについての会話

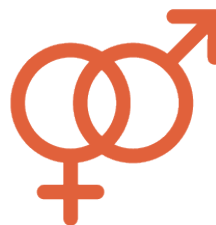
私たちはまた、性別、セクシュアリティ、および性的な話題を含む領域についてティーンたちに尋ねました。ティーンたちはこの話題に関しては異なる影響を挙げています。

この話題では、インターネットが最も影響力を持っています。3人に1人以上のティーンがこれらのトピックに関しては、最も頻繁にSNSに情報や手引きを求めると思っています。友人や仲間は2番目、家族は3番目、そして宗教指導者や聖典はリストの最下位でした。

クリスチャンの間でも、これらの話題において影響力が最も大きいのは家族を差し置いてオンラインの情報やSNSです。性別やセクシュアリティに関しては、文化の声が聖書や教会といった声をかき消しているように見えます。

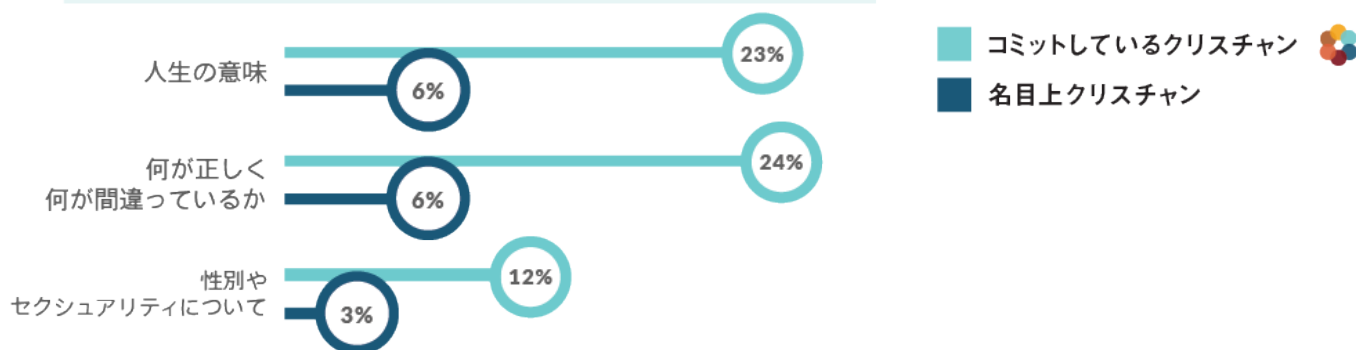
しかし、キリスト教の中心的な信条を信じ、聖書を読み、祈りの習慣を持っているコミットしているクリスチャンの間では大きな違いを見ることができます。このようなティーンは、自分たちの信仰のリーダーや神の言葉により注意を払っています。コミットしているクリスチャンのティーンは、名目上クリスチャンに比べて、宗教指導者や聖典にアドバイスを求めることが多いと答えている人が約4倍もいます。

性別やセクシュアリティにまつわる会話



- ① オンライン / SNS : 36%
- ② 友人 / 仲間 : 23%
- ③ 家族 : 20%
- ④ 先生 / カウンセラー : 11%
- ⑤ オフライン : 6%
- ⑥ 宗教指導者 / 聖典 : 4%

多くの場合、宗教指導者や聖典に以下についての情報やアドバイスを求める



彼らの考えを変えるのは何か

影響力は情報を与え、意見を形成するのに役立ちますが、最終的に何を信じるか、そして、その価値観をどれだけ強く持ち続けるかは、一人ひとりにかかっています。

私たちは、ティーンたちが、あらかじめ持っている宗教的見解を変えることができるものは何かを、探りたいと思いました。

宗教的見解を変える要素として、「祈りが聞かれた」などの個人的な体験が最も多い回答でした。またティーンたちは、他人に相談するよりも、自分でその問題を調べることを好む傾向があります。両親や牧師などの権威者との会話は、ランクの中でかなり低く、友人との会話は最下位でした。

宗教的な見解について
あなたの考えを変える可能性が
最も高いものは何でしょうか？

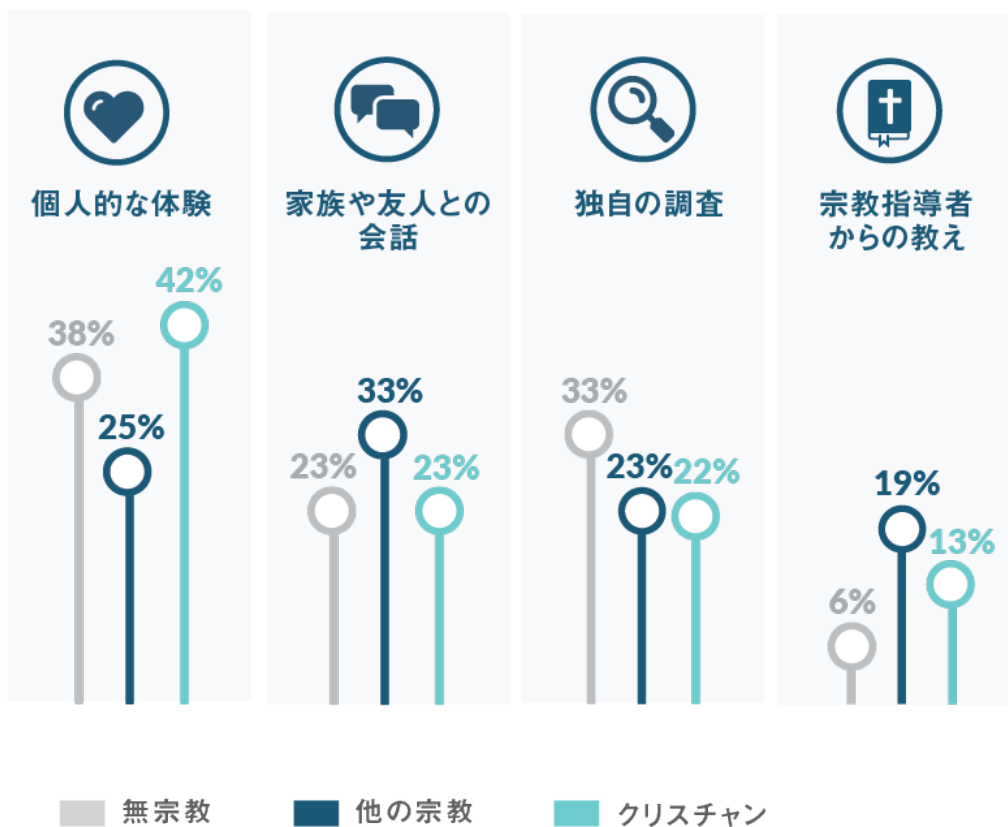


- ① 祈りが聞かれたなどの個人的な体験：37%
- ② ネットや本で、自分で調べたこと：26%
- ③ 両親との会話：18%
- ④ 宗教指導者からの教え：12%
- ⑤ 友人との会話：8%

この質問に対する回答結果が他の国と真逆だったのは唯一インドでした。インドのティーンの約半数(46%)は、両親との会話が最も自分の考えを変える可能性が高いと述べ、個人的な体験は、はるかに低いランク(15%)となりました。

無宗教のティーンは、「独自の調査」に大きく頼っていますが、それでも、それ以上に個人的体験によって意見が変わると答えています。クリスチャンは、個人的な体験が彼らの意見を変えると答えているティーンが、他の宗教のティーンよりも多いです。すべての宗教の中で、イスラム教徒は個人的な体験を最も重視せず、宗教指導者からの教えを最も重視しています。（イスラム教徒は、下記の「他の宗教」に含まれる最大のグループです）

宗教的な見解についての意見を変える可能性が高い



結論

複雑化し、混乱していく世界の中で、ティーンたちがどのような影響を受け、どのような声に聞いているのかを、彼らから直接聞くことができたことは貴重でした。以下は彼らの応答について考慮すべきいくつかの点です。

- **家族の影響は大きい**

この調査によると、人生で最も重要な疑問に直面したとき、ティーンたちは最終的に家族を信頼し、アドバイスを求めていることがわかりました。両親は、子どもが信じる事柄を決定する上で最も重要な役割を果たしています。

- **聖書と教会は他の情報源に比べて影響力が小さい**

これは、特に性別とセクシュアリティの話題に関して当てはまります。文化の声は、SNSや仲間を通して表現されて、これらの重要な話題においてティーンたちの中での基準となっています。教会はどのようにして、これらの重要な分野でティーンたちと関わる役割を担っていくことができるのでしょうか。

- **個人的な体験は、若者の人生の中で非常に大きな影響力を持っています。**

すでにキリストと共に歩んでいるティーンは、自分の信仰を真に体験することを求め、神は存在しないと言っている人でさえも、個人的に神に出会えば、その考えを変えることに対して開かれています。私たちはどのようにして、そのような体験ができる環境や機会を作ることができるのでしょうか。



ロブ・ホスキンスからのメッセージ

私たちは耳を傾けているでしょうか。

この調査の結果、今日の若者に、誰が、そして何が影響を与えているのかを明確に知ることができました。真実が相対化されている文化の中で、神に忠実な世代を育てることは不可能に思えます。しかし、わたしたちの神は不可能の神ではなく、事をなされるお方です。

私たちが思春期に経験したことは、今日の若者が直面していることと同じではないかもしれませんが、この調査は重要な示唆を示してくれました。この情報から、若者達がどのような課題に直面しているのか、現実を掘り起こすことができます。

これらの調査結果は、性別やセクシュアリティのように文化が混沌を引き起こしている話題に対して、ティーンたちが賢明な助言を切望していることを明らかにしています。若い世代の個人的な葛藤や自殺願望/ 未遂の驚くべき割合は、助けを求める彼らの明らかな叫びです。この混沌とした世界の中で、諦めてはいけません。そこには良い知らせがあるからです。ティーンたちは、人生について大きな問いがあるとき一番初めに頼るのは血のつながった家族と神の家族（教会）だと感じているということです。

残念なことに、ティーンたちは、自分が何者で、人生の目的は何なのかの答えを神の言葉、牧師、教会のような真理に繋がる情報ではなく、Google検索やYouTubeに求めています。しかし、彼らの混乱は今に始まったことではありません。実際、今日のティーンたちは、ヨハネ14:5-6に出てくる、人生の大きな問いを投げかけた疑い深いトマスによく似ていると思います。

「どうしたら、その道を知ることができるでしょうか。」

文化が浸透性と説得力を持つ世界を、ティーンたちが歩む中で、私たちは時代を超えた真理に導く手助けをする働きを担っています。トマスの時代と同じように、今日も真実の言葉をもって、疑い、混乱、疑問に答えてくださるイエス様を彼らに、指し示さなければなりません。次世代は、自分たちの答えはクラウドの中ではないことを知る必要があります。

どんなに、この世界が複雑で、混乱していて、問題だらけだとしても、イエス・キリストの、この答えに彼らはいつも真実を見つけ、進むべき方向を見出すことができます。

「わたしが道である。」

OneHopeについて

OneHopeは世界中の教会、ミニストリー、政府と協力して、16億人以上の子どもと青年たちに神の言葉を届けてきました。OneHopeがそれぞれの国で行っているリサーチを基に、年齢と文化に適切に工夫した聖書プログラムを提供しています。1987年以来、OneHopeは、子どもたちに神のストーリーを届け、人生を変える希望のメッセージを世界の子どもと青年たちに伝えてきました。

調査方法

本調査では、20カ国の13歳から19歳までのティーンたち8,394人を対象に調査を行いました。各国において、約400人のティーンのサンプルを収集し、許容誤差はプラスマイナス5%、統計的信頼度は95%になりました。全世界の統計において信頼度はさらに高く、誤差はより小さくなっています。

5カ国（中国、エジプト、インド、日本、ベトナム）では、宗教に基づいた分析や比較のために、有効な抽出量を得るために、回答者の少なくとも10%がクリスチャンであるように割り当てました。他のいくつかの国では、割当抽出法を使用しないで、クリスチャン、またはイスラム教徒が最低10%いることを満たすか、あるいはそれに近いものとなりました。ケニアでは、回答者の少なくとも40%を女性とするために、割当抽出法が使用されました。

この調査は、Centiment Research社を通じて配布されました。品質管理のため、簡単な注意力テストの質問に誤って回答した場合には失格となります。調査ツールは70の基本的な質問と、特定の話題を調査するために地域ごとにカスタマイズされたいくつかの追加質問で構成されています。

データ収集

本調査のデータは、2020年2月24日から3月27日までの間に収集されました。オンラインの利用時間や、うつ、不安感、またこの調査の一部として検証されたその他のメンタルヘルスなどの指標に影響を及ぼす可能性のある、自宅待機や隔離命令による広範囲な影響をティーンたちが感じ始める以前の、彼らの信仰や振る舞いを正確に反映していると考えています。中国を除くすべての国では、COVID-19パンデミックによる国家的なロックダウンが課される前にデータ収集が完了していました。中国はパンデミックの発生地であり、最も早い時期にロックダウンが行われたことから、例外となっています。

国	抽出量	データ収集日
アルゼンチン	420 人	2020年2月27日～3月2日
ブラジル	420 人	2020年2月27日～3月11日
中国	420 人	2020年2月27日～3月6日
コロンビア	413 人	2020年2月27日～3月2日
エジプト	420 人	2020年2月27日～3月9日
インド	412 人	2020年2月28日～3月17日
インドネシア	420 人	2020年2月27日～3月7日
日本	425 人	2020年2月27日～3月23日
ケニア	435 人	2020年2月25日～3月27日
メキシコ	420 人	2020年2月27日～3月2日
オランダ	419 人	2020年2月27日～3月8日
ナイジェリア	420 人	2020年2月24日～3月20日
ポルトガル	419 人	2020年3月7日～3月18日
ルーマニア	420 人	2020年2月28日～3月13日
ロシア	418 人	2020年2月27日～3月2日
南アフリカ	420 人	2020年2月24日～3月7日
スペイン	420 人	2020年3月7日～3月13日
イギリス	420 人	2020年2月24日～3月3日
アメリカ	410 人	2020年2月24日～2月29日
ベトナム	423 人	2020年3月13日～3月26日

定義

コミットしているクリスチャン

エホバの証人でもモルモン教徒でもなく、クリスチャンであると自認していて、以下の基準を満たしているティーンたち。

- 神が存在し、神と個人的な関係を持つことができると信じている。
- イエス・キリストが神の子どもと信じている。
- 罪の赦しはイエス・キリストへの信仰によってのみ可能であると信じている。
- 聖書は神の言葉であると信じている。
- 毎日、または毎週、自分で聖書を読む。
- 毎日、または毎週祈る

コミットしているクリスチャンのティーンには、プロテスタント、カトリック、セブンスデーアドベンチスト、正教会、または他のキリスト教の宗派を含みます。

名目上クリスチャン

エホバの証人でもモルモンでもなく、クリスチャンであると自認しているティーンで、「コミットしているクリスチャン」のために定められた中心的な信条や習慣の基準を満たしていなかった人たち。

他の宗教

仏教、ヒンドゥー教、ユダヤ教、イスラム教、その他の宗教を自認していたティーン。

無宗教

無神論者、不可知論者、または上記のいずれでもないとして自認していたティーン。

お問い合わせ

この調査についての質問がありましたら、research@onehope.netまでご連絡ください。



世界のユース文化調査

Copyright © 2021 by OneHope, Inc.
600 SW Third Street Pompano, FL 33060
onehope.net

聖書箇所は新改訳聖書2017 より引用

Suggested citation:

OneHope. (August 2020). Global Youth Culture, Global Report. www.globalyouthculture.net



世界のユース文化調査

